

ガードステーション 3.0 ユーザマニュアル

バージョン : V1.20

弊社の製品をお選びいただきありがとうございます。ご質問・ご要望については、ご遠慮なく販売店までご連絡ください。

免責事項

- 本書の内容は、予告なしに変更される場合があります。
- 本書の内容の完全性と正確性を検証するため最善の努力を払っていますが、本書の記述、情報、または推奨事項は、明示または黙示を問わず、正式な保証を構成するものではありません。本書の技術的誤謬や誤植について、当社は一切責任を負いません。
- 本書の図は参照専用です。
- 物理環境などの不確定要素により、実際の値と本書の参考値が食い違うことがあります。最終的な解釈は当社の一存に委ねられます。

凡例

凡例	説明
太文字	コマンド、キーワード、パラメータ、GUI要素（ウィンドウ、タブ、ダイアログボックス、メニュー、ボタンなど）。
イタリックフォント	使用者が値を指定する変数。
>	一連のメニュー項目を分割します。例: Device Management > Add Device 。

目次

1 はじめに	1
2 システム要件	1
3 インストールと起動	2
4 GUI の導入	3
5 デバイス管理	4
5.1 エンコードデバイス	4
5.1.1 エンコードデバイスの追加	4
5.1.2 エンコードデバイスの設定	6
5.1.3 グループ管理	7
5.2 デコードデバイス	8
5.3 クラウドデバイス	9
5.4 アクセスコントロールデバイス	10
5.5 ネットワークキーボード	10
6 ライブビュー	12
6.1 ライブビュー	12
6.1.1 ライブビデオの再生	12
6.1.2 ビューによるライブビデオの再生	14
6.2 ライブビューコントロール	16
6.2.1 ライブビューツールバー	16
6.2.2 ライブビューウィンドウツールバー	16
6.2.3 ライブビューショートカットメニュー	18
6.3 PTZ コントロール	19
6.3.1 PTZ コントロールパネル	19
6.3.2 プリセット	20
6.3.3 プリセットパトロール	21
6.3.4 録画パトロール	22
6.3.5 自動ガード	22
6.4 魚眼コントロール	23
6.5 トラッキングモード	23
6.6 ボックス-ドームのリンクージ	24
6.7 シーケンスディスプレイ	25
6.7.1 シーケンスリソース	25
6.7.2 シーケンスビュー	26
7 録画と再生	28
7.1 録画スケジュールの設定	28
7.1.1 毎日 24 時間録画スケジュールの設定	28
7.1.2 録画スケジュールのカスタマイズ	28

7.2	ビデオの手動録画	29
7.3	再生	29
7.3.1	デバイス録画の再生	29
7.3.2	ローカル録画と画像	30
7.3.3	再生コントロール	31
7.3.4	スマート検索	32
7.4	POS 録画再生	33
7.5	録画ダウンロード	34
7.5.1	録画のダウンロード	34
7.5.2	ダウンロードタスクの管理	35
8	ビデオウォール	35
8.1	ビデオウォールを追加	36
8.2	ビデオウォールの操作	37
8.2.1	ビデオウォールでビデオを再生する	37
8.2.2	音声出力	38
8.2.3	シーケンスリソースの再生	39
8.2.4	仮想 LED	42
8.2.5	その他のビデオウォールの操作	43
8.3	画面コントロール	44
8.3.1	シリアルポートとプロトコルの設定	44
8.3.2	設定した時間に自動的に画面をオンまたはオフにする	45
8.3.3	手動で画面をオンまたはオフにする	45
8.3.4	一定時間後に画面をオフにする	45
9	周辺警備	46
9.1	リアルタイム監視	46
9.2	行動検索	48
10	顔認識	48
10.1	リアルタイム監視	48
10.2	顔ライブラリの管理	50
10.2.1	顔ライブラリの作成	50
10.2.2	顔データを追加	50
10.3	監視タスク	52
10.4	アラーム録画数	53
10.5	パススルー録画	53
10.6	画像で検索	54
11	人数カウント	55
11.1	リアルタイム統計	55
11.2	レポート統計	56
12	アクセスコントロール	57
12.1	ライブラリの管理	57
12.1.1	ライブラリの追加	57

12.1.2 人物データの追加	58
12.2 リアルタイム監視	59
12.3 入口/出口の録画	61
13 E マップ	62
13.1 マップの設定	62
13.1.1 マップの追加	62
13.1.2 ホットスポットの追加	63
13.1.3 ホットゾーンの追加	64
13.2 マップの操作	65
13.2.1 マップ上でホットスポットやホットゾーンを見つける	65
13.2.2 ホットスポットの操作	65
13.2.3 アラームの処理	66
13.2.4 ホットゾーンの表示	67
14 音声	67
14.1 音声	68
14.2 双方向オーディオ	68
14.2.1 カメラとの双方向音声	68
14.2.2 NVR との双方向音声	69
14.3 ブロードキャスト	70
15 アラームの設定	71
15.1 アラーム起動型アクションの設定	72
15.2 アラーム録画の表示	73
15.2.1 直近のアラーム	74
15.2.2 履歴アラーム	76
16 操作ログ	77
17 システム設定	78
18 ユーザ管理	82
19 付録	83
19.1 MyDDNS でエンコーディングデバイスの追加	83
19.2 予備モニターの回復	84
マルチウィンドウディスプレイ	84

1 はじめに

Guard Station 3.0 は、ビデオ管理ソフトウェアです。ライブビュー、再生、デバイス管理、録画スケジュール、アラーム設定、ビデオウォール、人数カウント、E マップなどのビデオ監視サービスを提供します。本ソフトウェアは、導入と操作が容易であり、スーパーマーケット、駐車場、住宅地などの中小規模のアプリケーションに適しています。詳細については、データシートをご覧ください。



注意！

- 本ソフトウェアには異なるバージョンがあり、互換性のあるオペレーティングシステムにインストールする必要があります。詳細については、データシートをご覧ください。
 - 機能は、ソフトウェアバージョン、デバイスとバージョン、およびソフトウェアによるデバイスの管理方法（カメラとの直接接続、または NVR 接続カメラなど）を含むがこれらに限定されない要因によって異なる場合があります。
 - 本書は、特定のソフトウェアバージョン用ではありません。本書に記載されている一部の機能は、特定のバージョンでのみ使用できます。
 - 直接接続カメラ：ソフトウェアによって直接管理されるカメラ（NVR 接続カメラと異なる）。
 - NVR 接続カメラ：NVR を経由でソフトウェアによって管理されるカメラ（直接接続されたカメラと異なる）。
 - IPC：IPC、IP カメラ、およびカメラは、本書では同じものを指します。
 - PC: ソフトウェアを実行するコンピュータ。本書ではクライアントとしても言及されています。
-

2 システム要件

ソフトウェアをホストする PC は、パフォーマンス要件を満たす必要があります。要件は、ソフトウェアの使用方法によって異なる場合があります。たとえば、複数のウィンドウで高解像度のライブビューを使用するには、より高いシステムパフォーマンスが必要です。

ソフトウェアバージョン	システム要件
64ビット	OS: Microsoft Windows 7/8/10（64ビット） CPU: Intel Core i5 3.1GHz以上 メモリ：4GB以上

ソフトウェアバージョン	システム要件
32ビット	OS: Microsoft Windows 7/8/10 (32ビットまたは64ビット) CPU: Intel Pentium IV 3.0GHz以上 (4コア、3.0GHzを推奨) メモリ : 2GB以上 注意 : 64ビットWindowsは、32ビットソフトウェアをホストできます。
Mac	OS: Mac OS 10.11以降 CPU: Intel Core i5 3.1GHz以上 メモリ : 4GB以上



注意！

64ビットのOSとソフトウェアが推奨されます。ライブビューと再生はRAMを消費しますが、32ビットソフトウェアには比較的小さなRAMしか備わっていません。RAMが不足すると、ソフトウェアはライブまたは録画したビデオのチャンネルを再生できなくなり、RAMが不十分であることを示すメッセージが表示されます。

3 インストールと起動

1. .exe ファイル (Windows の場合) または.pkg ファイル (Mac の場合) をダブルクリックし、ウィザードの指示に従ってインストールします。
2. インストールが完了したら、ショートカットアイコンをダブルクリックしてソフトウェアを起動します。
3. ユーザー名とパスワードでログインします。初めてログインする場合は、ログイン前に管理者アカウントを作成し、セキュリティ質問を設定します。



注意！

- 英数字と特殊文字を含む9文字以上の強力なパスワードを設定してください。
 - パスワードを忘れた場合は、**Forgot Password** をクリックしてください。セキュリティ質問が設定されている場合のみ、この機能を利用することができます。セキュリティ質問を設定したり、パスワードを変更するには、ログイン後、右上の **Username** をクリックします。
4. ログインすると、メインページが表示されます。メインページには、コントロールパネル、いくつかの機能ボタン、およびシステムメニューが含まれています。

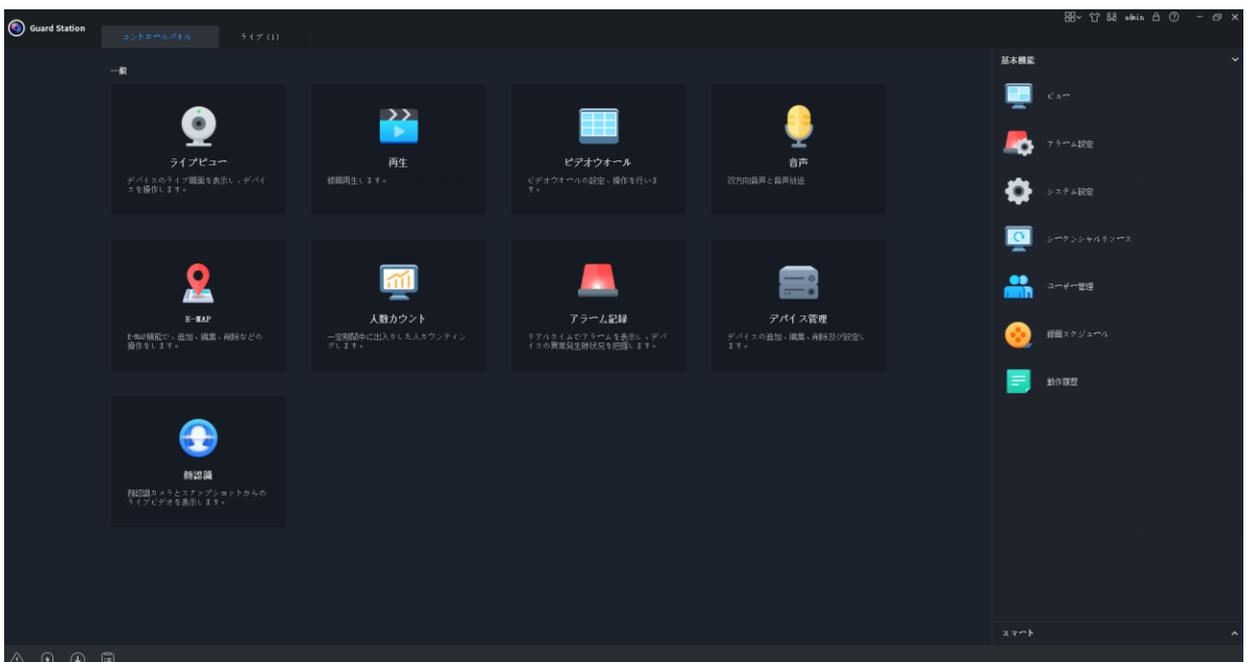


注意！

初めて使用する場合は、デバイスを追加してライブビューを開始するための設定ウィザードが表示されます。ウィザードでは、デフォルトのユーザー名/パスワード（admin/123456）を使用してデバイスを追加します。

4 GUI の導入

ログインすると、メインページが表示されます。メインページは、コントロールパネルといくつかの機能ボタンで構成されています。



- コントロールパネルには、**Common** と **Basic/Smart** のエリアがあります。アイコンをクリックすると、対応するモジュールにアクセスします。アイコンをドラッグすると、別のアイコンと位置を変更できます。
- 右下のボタンをクリックします：

アイコン	説明
	メニュー。メニューのアイコンをクリックすると、該当のモジュールにアクセスします。
	外観を変更します。クライアントの明るさやダークテーマの色を選択できます。
	アカウントを切り替えます。
ユーザー名	クリックしてパスワードを変更します。 注意：

アイコン	説明
	パスワードを変更する際、セキュリティ質問が未設定の場合は、パスワードを忘れてもリセットできるように、同時にセキュリティ質問を設定する必要があります。
	GUIをロックします。
	設定ウィザードとユーザーマニュアルを開いてバージョン番号を表示し、更新情報を更新します。 注意： 利用可能なアップデートがある場合は、クリックして詳細を確認し、新しいバージョンをダウンロードすることができます。

- 左下のボタン：

アイコン	説明
	リアルタイムアラームの表示、アラーム音のオン/オフ、アラームトリガーのライブビデオを有効化/無効化します。
	アラームがトリガーされたライブビデオを表示します。
	録画をダウンロードします。
	ダウンロードタスクを表示および管理します。

5 デバイス管理

デバイスには、エンコードデバイス、デコードデバイス、クラウドデバイス、アクセスコントロールデバイス、ネットワークキーボードが含まれます。このソフトウェアは、最大 64 のローカルデバイスと 64 のクラウドデバイス、最大 512 のローカルチャンネルと 512 のクラウドチャンネルをサポートします。

5.1 エンコードデバイス

5.1.1 エンコードデバイスの追加

エンコードデバイスには、IPC（本書では IP カメラ、カメラ、またはビデオチャンネルとも呼ばれます）、ネットワークビデオレコーダー（NVR）、ハイブリッド NVR が含まれます。



注意！

- 異なる管理ソフトウェアプログラムでデバイスを管理すると、予期しない問題が発生する場合があります。
- 常に管理者としてデバイスを追加してください（ユーザー名「admin」を入力してください）。

コントロールパネルの **Device Management** をクリックして次の手順を実行してください。

- Device > Encoding Device** をクリックします。このページは、2つのリストを持つ2つの領域に分かれています。
 - Online Device** リスト: ソフトウェアはオンラインデバイスを検索し、自動的に更新します。注意：検出されたデバイスはまだ追加されていないため、手動で追加する必要があります（手順2をご覧ください）。
 - Managed Device** リスト：ソフトウェアに追加されているデバイスをリストします。

The screenshot shows the 'Device Management' interface. The top section, 'Device Management (3)', contains a table with columns: 名称 (Name), IP アドレス (IP Address), 状態 (Status), 型番 (Model), デバイス設定 (Device Settings), バージョン情報 (Version Information), and 動作 (Action). It lists three devices: 206.2.7.4 (Online), DC (Offline), and another DC (Offline). The bottom section, 'オンラインデバイス(4)' (Online Devices (4)), contains a table with columns: IP アドレス (IP Address), 型番 (Model), デバイス設定 (Device Settings), シリアル番号 (Serial Number), バージョン情報 (Version Information), and 追加 (Add). It lists five devices with various IP addresses and models like NVR and IPC.

- Online Device** リストからデバイスを選択して **Add** をクリックします。デバイスは異なる複数のグループに追加できます。
 - ソフトウェアはデフォルトのユーザー名（admin/123456）を使用してデバイスを追加します。デバイスのパスワードが変更されていて 123456 でない場合、手順3でパスワードを変更する必要があります。
 - Online Device** リストでは、以下の操作が可能です：
 - Refresh** をクリックするとリストを更新します。
 - Search Config** をクリックすると検索するネットワークセグメントを指定できます。
 - デバイスを右クリックすると、Web インターフェイスにアクセスできます。
- Managed Device** リストで、追加されたデバイスの状態を確認し、以下を実行してください：

～	方法
デバイスの追加	<ol style="list-style-type: none"> 1) Add をクリックします。 2) モードを選択します。選択したモードに関係なく、デバイスのユーザー名 (admin) とパスワードは常に必要です。 <ul style="list-style-type: none"> ● IP/ドメイン: 既知の IP アドレスを持つデバイスを追加します。 ● IP セグメント: 連続した IP アドレスを持つ複数のデバイスを追加します。 ● MyDDNS: デバイスで DDNS を有効にし、事前にポートマッピングを完了しておく必要があります。詳しくは付録をご覧ください。 3) Add をクリックしてデフォルトグループに追加、または Add to Group をクリックして、指定されたグループに追加し、グループ管理を確認します。
デバイスの編集	<p>デバイスを選択して Edit をクリックします。このボタンは、複数のデバイスを追加する際に同じユーザー名とパスワードを設定する場合に特に便利です。</p>
デバイスの削除	<p>デバイスを選択して Delete をクリックします。削除されたオンラインデバイスはまだ Online Device リストに残ります。</p>
時間同期	<p>Time Sync をクリックし、PC のシステム時間を選択したデバイスに同期します。</p>
デバイスの状態を表示	<p>Status をクリックして、デバイスのオンライン/オフライン、アラーム登録、録画、ストレージの状態を表示します。</p> <p>手動で更新することも、自動的に更新する間隔を設定することもできます。</p>
Operation カラムのボタンを使用してください。	<ul style="list-style-type: none"> ●  : デバイス名、IP アドレス、ユーザー名/パスワードを編集します。デバイスの状態が Offline (不正なユーザー名またはパスワード) の場合、このボタンをクリックして、パスワードを実際のパスワードに変更してください。ダブルクリックしてデバイスを編集することもできます。 ●  : デバイスの画像、エンコード、OSD の設定を行います (エンコーディングデバイスの設定 をご覧ください) 。 ●  : デバイスの Web インターフェイスにアクセスします。 ●  : デバイスを再起動します。

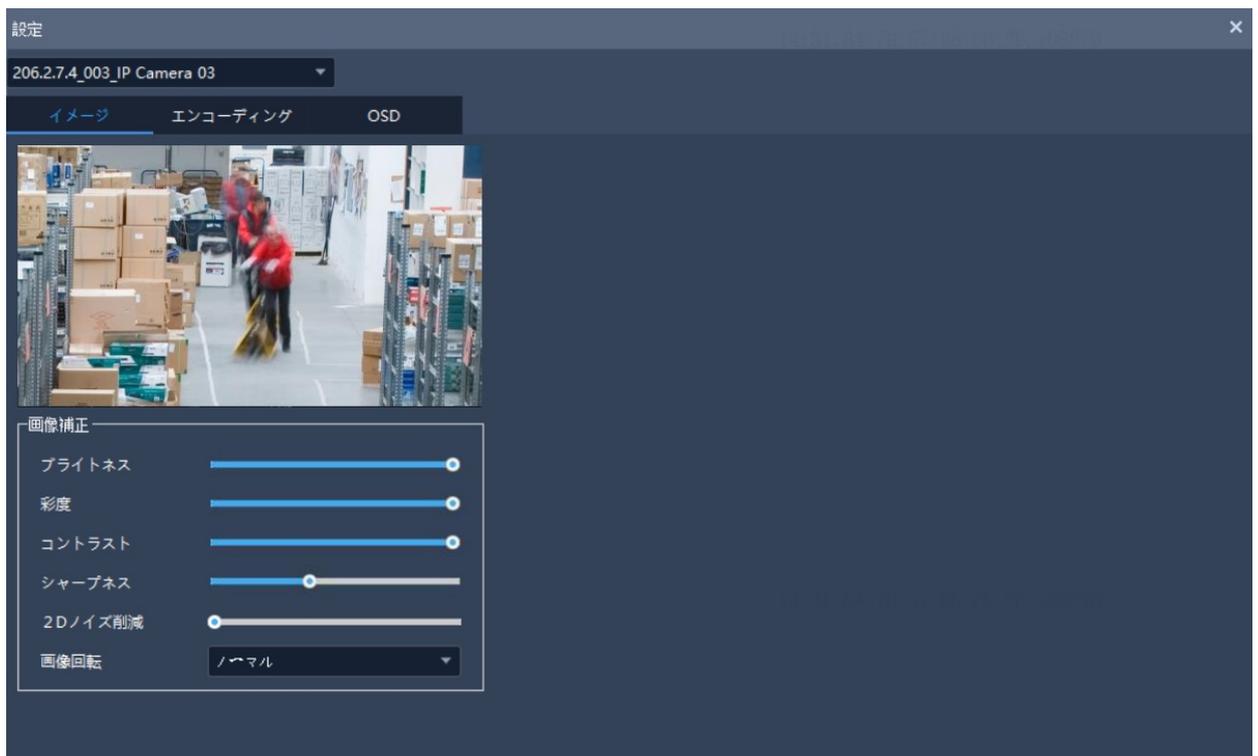
5.1.2 エンコードデバイスの設定

Managed Device のリストで、オンラインデバイスの  をクリックすると、デバイスの Web インターフェイスを開かずに、画像、エンコード、温度を設定することができます。



注意！

- この機能はデバイスがサポートしている必要があり、デバイスのバージョンが低すぎる場合は使用できない場合があります。
- 温度測定パラメータは、サーマルカメラでのみ使用できます。
- 表示される設定は、デバイスのバージョンとデバイスの管理方法によって異なる場合があります。
- 画像、エンコード、OSD、温度測定パラメータの詳細については、デバイスのユーザマニュアルをご覧ください。
- Mac バージョンは、OSD 設定、温度測定設定をサポートしていません。



注意：

- 変更された画像と OSD 設定はすぐに有効になります。尚、設定を有効にする前に、エンコードおよび温度測定の設定を予め保存しておく必要があります。
- NVR の場合、ドロップダウンリストからカメラを選択する必要があります。
- OSD を設定する際、画像をダブルクリックすると全画面で表示できます。青いボックス（領域 1、2...）はプレビューにのみ表示され、ライブビュー画像には表示されません。OSD をドラッグして再配置できます。

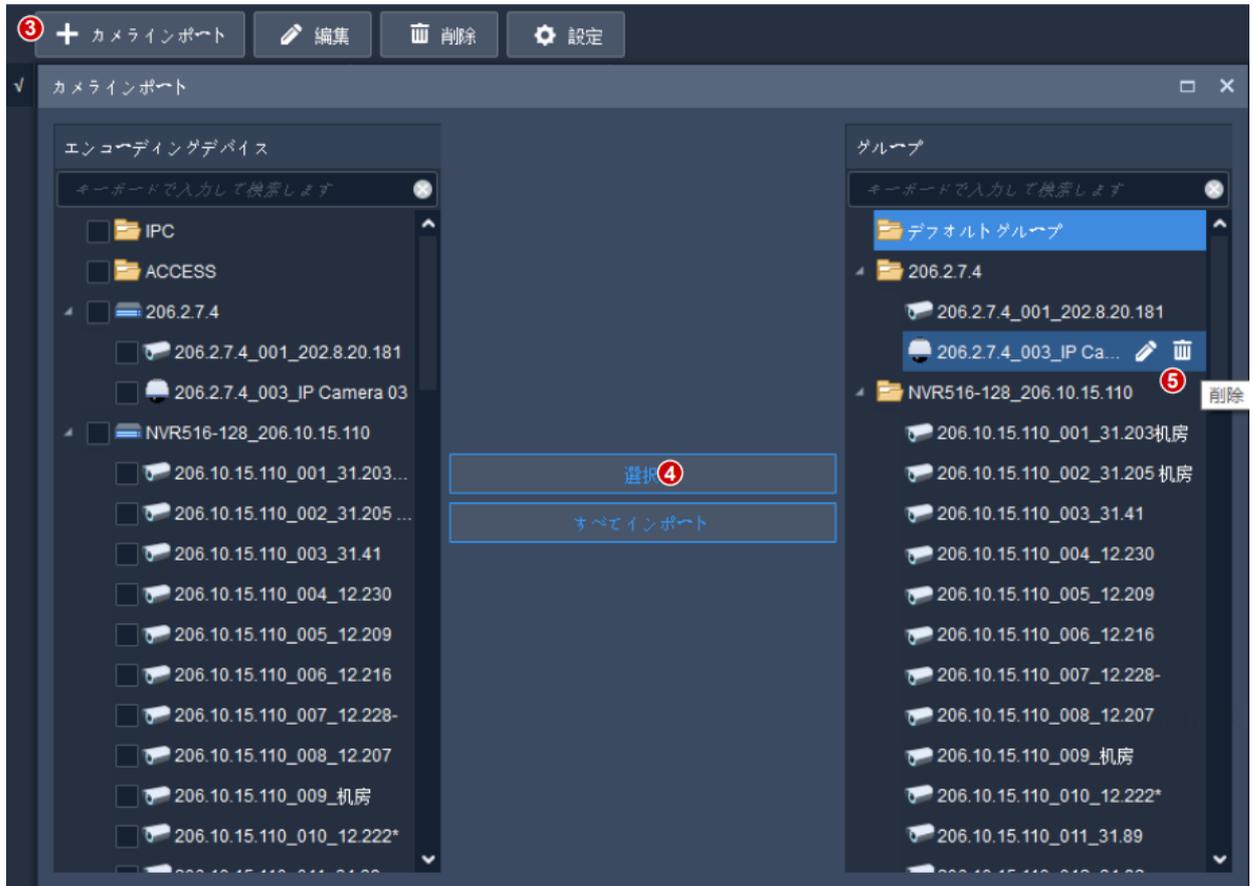
5.1.3 グループ管理

グループを作成すると、異なるグループのカメラを管理できます。

1. グループを追加します。



2. グループにカメラをインポートします。



- カメラのインポート手順：右側のグループをクリックし、左側のカメラを選択して、**Import Selected** をクリックします。すべてのカメラをインポートするには、**Import All** をクリックします。
- グループからカメラを削除するには、カメラにマウスポインタを合わせて **Delete** をクリックします。
- グループ内のカメラの名前を変更するには、カメラにマウスポインタを合わせて **Rename** をクリックします。

5.2 デコードデバイス

ビデオウォール機能を使用する前に、デコードデバイスを追加する必要があります。手順は、エンコードデバイスを追加する場合と同様です。[エンコードデバイスの追加](#) をご覧ください。

注意：管理者としてデコードデバイスを追加します。

5.3 クラウドデバイス



注意！

このソフトウェアは、お持ちのデバイスや、他のクラウドアカウントと共有しているデバイスなど、最大 64 台までのクラウドデバイスを同時に管理できます。クラウドデバイスの総数が上限を超える場合は、**Device Details** をクリックし、**Add Manage** または **Cancel** ボタンで管理するクラウドデバイスを指定します。

コントロールパネルの **Device Management** をクリックして次の手順を実行してください。

1. **Device > Cloud Device** をクリックします。
2. クラウドアカウントにサインアップするには、**Register** をクリックします。尚、既に登録している方は、手順 3 に進んでください。
3. クラウドアカウントのユーザー名とパスワードを入力し、**Login** をクリックします。クラウドデバイス（**My Cloud Device** の下）および他のクラウドアカウントから共有されているデバイス（**Shared Cloud Device** の下）を含むクラウドアカウントのデバイスがリストされます。

The screenshot displays the 'Device Management' interface. At the top, there are tabs for 'クラウドアカウント' (Cloud Account) and 'デバイス詳細' (Device Details). Below the tabs, there are buttons for 'クラウドデバイス (3を追加した)' (Cloud Devices (3 added)), 'キャンセル' (Cancel), and '時刻同期' (Sync Time). The main area contains a table with columns: 'クラウド名称' (Cloud Name), 'ローカル名称' (Local Name), '型番' (Model), 'デバイス設定' (Device Settings), 'IP アドレス' (IP Address), '状態' (Status), and '動作' (Action). The table lists three devices: NVR60.6, NVR50.20, and 30.42. Below the table, there are buttons for 'クラウドデバイスを共有する (0を追加した)' (Share Cloud Devices (0 added)), 'キャンセル' (Cancel), and '時刻同期' (Sync Time). At the bottom, there is another table with columns: 'デバイス名称' (Device Name), '型番' (Model), 'デバイス設定' (Device Settings), 'IP アドレス' (IP Address), '状態' (Status), '管理者' (Admin), '有効期間' (Validity Period), and '動作' (Action).

ヒント：

- **Operation** の下のボタンを使用して、デバイス名の編集、画像、エンコードおよび OSD の設定、デバイスの Web インターフェイスの起動、デバイスの再起動を行うことができます。

- **Cancel** をクリックすると、クラウドアカウントからデバイスを削除せずにデバイスの管理をキャンセルすることができます。
- **Time Sync** をクリックすると、デバイスを PC のシステム時間と同期させます。
- **Device Details** をクリックすると、クラウドデバイスの追加、編集、削除、共有または共有のキャンセル、管理または管理のキャンセルを行うことができます。

ヒント :

- **Add** をクリックしてクラウドアカウントにデバイスを追加します (デバイスの Web インターフェイスに表示される登録コードが必要です。詳細についてはデバイスのユーザマニュアルをご覧ください) ; **Delete** をクリックするとクラウドアカウントからデバイスを削除します。
- **Add Manage** をクリックするとソフトウェアにデバイスを追加できます。**Cancel** をクリックするとクラウドアカウントからデバイスを削除せずに管理をキャンセルできます。
- デバイスをダブルクリックするか **Edit** をクリックするとデバイスの名前を変更できます。新しい名前をクラウドに同期するには、**Sync to Cloud** を選択してください。
- **Share** をクリックすると、デバイスを別のクラウドアカウントと共有できます。必要に応じて共有期間と権限を設定します。権限はデバイスで事前に設定されています。
- **Sharing Records** をクリックすると、共有履歴を表示したり、他のクラウドアカウントとの共有をキャンセルできます。
- **Cancel Sharing** をクリックすると、他のクラウドアカウントからの共有をキャンセルできます。

5.4 アクセスコントロールデバイス

アクセスコントロールデバイスの追加については[エンコーディングデバイスの追加](#)を参照してください。尚、admin としてアクセスコントロールデバイスを追加してください。

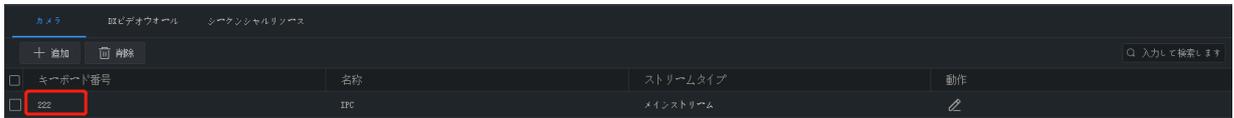
5.5 ネットワークキーボード

ネットワークキーボードを使用すると、ビデオウォールのライブビデオ、再生、PTZ カメラ、シーケンスリソースを制御できます。

次の手順では、ビデオウォールでライブビデオを再生する方法について説明します。開始する前に、キーボードのユーザマニュアルを参照して、キーボードを PC に接続してください。その上で、コントロールパネルの **Device Management** をクリックして次の手順を実行してください。

1. カメラを追加します。**Camera** タブ上で、**Add** をクリックし、ビデオウォールで再生するカメラを選択して **OK** クリックします。リストにカメラが表示されます。

ヒント : 後でキーボードを操作するときに番号 (222 など) を使用します。



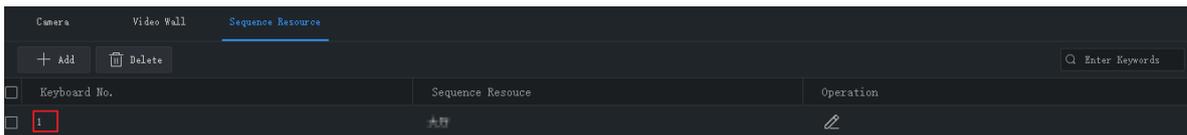
2. ビデオウォールを追加します。DX Video Wall タブ上で、**Add** をクリックし、ビデオウォールを選択して **OK** をクリックします。最初にビデオウォールを構成する必要があります。詳しくは [ビデオウォール](#) をご覧ください。

ヒント：後でキーボードを操作するときに番号（1 など）を使用します。



3. シーケンスリソースを追加します。**Sequence Resource** タブ上で、**Add** をクリックし、シーケンスリソースを選択して **OK** をクリックします。まずシーケンスリソースを構成する必要があります。詳しくは [シーケンスリソース](#) をご覧ください。

ヒント：後でキーボードを操作するときに番号（1 など）を使用します。



4. 次の操作は、ネットワークキーボード上で行います。
 - a. 手順 2 のキーボード番号を入力し（例: 1）、**AUX4** を押します。
 - b. 左上隅のウィンドウ番号を入力し（A と B の両方で 1 です）、**MON** を押します。
 - c. 分割画面番号を入力してから、**WIN** を押します。ウィンドウが分割されている場合（A の場合）、分割画面番号 **3** を入力します。ウィンドウが分割されていない場合（B の場合）、**1** を入力します。この手順は、ビデオウォールでライブビデオを再生する場合にのみ必要です。シーケンスリソースを再生する場合は、この手順をスキップしてください。
 - d. ビデオウォールで再生するカメラまたはシーケンスリソースを選択します。
 - ライブビデオ：手順 1 のキーボード番号を入力し（例: 222）、**CAM** を押します。
 - シーケンスリソース：手順 3 のキーボード番号を入力し（例: 1）、**CAM_G** を押します。
5. ビデオウォールでライブビデオが開始された後は、以下の操作が可能です。
 - ジョイスティックを使用して PTZ カメラの回転を制御し、ズームボタンとフォーカスボタンを使用してズームとフォーカスを制御します。
 -  ボタンを使用するとライブビデオを録画に切り替えることができます。

詳細については、キーボードのユーザマニュアルをご覧ください。

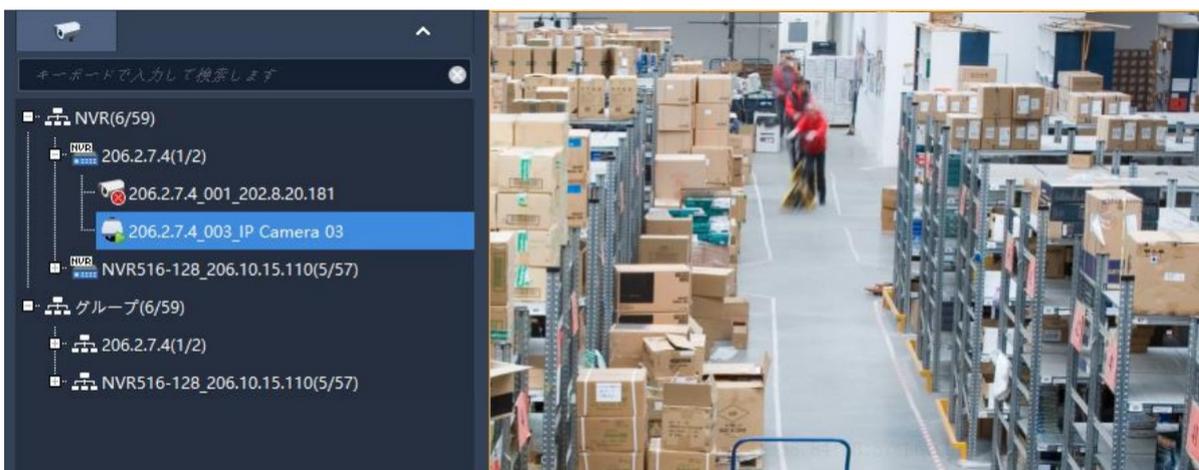
6 ライブビュー

6.1 ライブビュー

コントロールパネル上の **Live View** をクリックして、カメラからのライブビデオを表示します。

6.1.1 ライブビデオの再生

1. **Camera** タブでカメラをダブルクリックするか、ウィンドウにドラッグしてライブビデオを開始します。



2. カメラを右クリックして、ストリームタイプの選択、カメラ名の変更、アラーム出力状態の表示/変更を行います。

アラーム出力状態の表示/変更：NVR の下の IPC またはチャンネルを右クリックして、アラーム出力状態を表示または変更します。アラーム出力は、事前にデバイスで設定する

必要があります。または、マウスを NVR に合わせ、 をクリックして、NVR とその下のすべてのチャンネルのアラーム出力状態を表示または変更します。**Operation** 列のボタンまたは上部のボタンをクリックして、アラーム状態を変更します。



3. 画像をドラッグし、別のウィンドウで再生することができます。
4. ウィンドウをダブルクリックすると最大化し、もう一度ダブルクリックすると復元されます。



ウィンドウを最大化した後、マウスをライブビューページの左または右側に移動し、**<** または **>** をクリックすると、前または次のチャンネルのライブビデオに切り替わります。



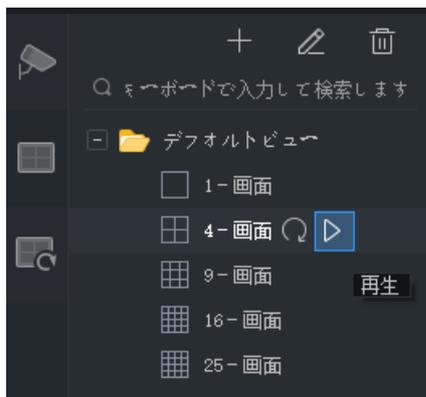
5. ライブビュー中は、ライブビューツールバーまたはウィンドウツールバーを使用できません。

6.1.2 ビューによるライブビデオの再生

デフォルトビュー

View タブ上で、デフォルトビューをダブルクリックするか、Play をクリックすると、カメラリスト上の対応する数のカメラからライブビデオを開始できます：4 分割ビュー用の 4 台のカメラ、9 分割ビュー用の 9 台、16 分割ビュー用の 16 台、25 分割ビュー用の 25 台。

例として、4-Split を使用します。



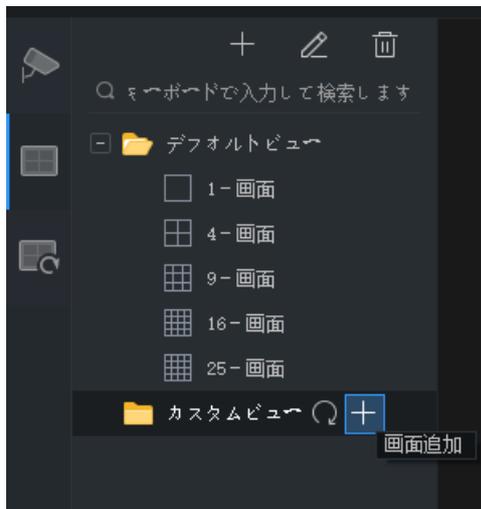
以下に示すように、カメラリストの最初の 4 台のカメラからのライブビデオが再生されます。

Cam 1	Cam 2
Cam 3	Cam 4

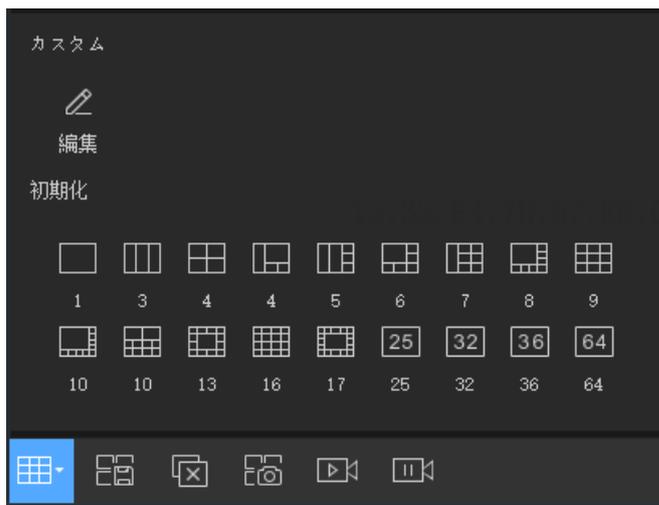
カスタムビュー

カスタムビューで指定されたカメラからライブビデオを再生します。

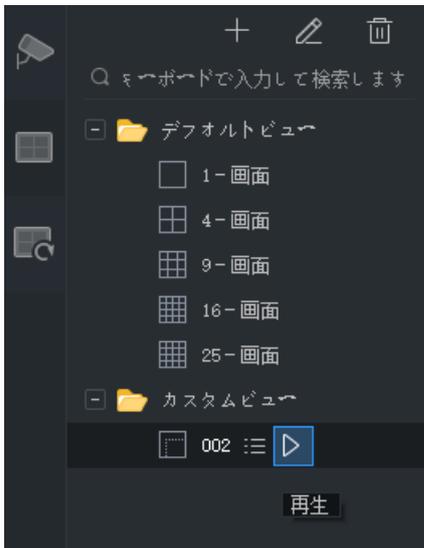
1. **View** タブ上で **Add View** ボタンをクリックしてビューを作成します。コントロールパネルの **View** をクリックして、シーケンスリソースを追加することもできます。



2. ウィンドウレイアウトを選択します。✎ をクリックしてカスタムレイアウトを編集します。編集時には **Combine** または **Undo** を利用できます。



3. カメラまたはシーケンスリソースを1つずつ目的のウィンドウにドラッグします。
4. **OK** をクリックします。
5. カスタムビューをダブルクリックするか、**Play** をクリックして、レイアウト（ステップ2で設定）の対応するウィンドウでカメラ（ステップ3で指定）からライブビデオを開始します。



6.2 ライブビューコントロール

6.2.1 ライブビューツールバー

ライブビューツールバーは、ライブビューウィンドウの下部にあります。



ボタン	説明
A	ウィンドウレイアウトを設定します。
B	現在のビューを直接保存するか、別のビューとして保存します。
C	ビデオ再生中のすべてのウィンドウを閉じます。
D	すべてのスナップショットを撮影します。
E	再生中のすべてのウィンドウの録画を開始します。
F	再生中のすべてのウィンドウの録画を停止します。
G	シーケンスディスプレイの一時停止/再開
H/I	前 / 次のグループを再生するか、シーケンスディスプレイで表示します。
J	全画面モードに切り替えます。Esc を押すと解除します。

6.2.2 ライブビューウィンドウツールバー

ライブビューウィンドウにマウスポインタを置くと、ウィンドウツールバーが表示されます。ツールバーは、現在のウィンドウに対してのみ有効です。



ボタン	説明
A	スナップショットを撮影します。スナップショット形式とストレージパスは、 システム設定 で設定できます。
B	現在のウィンドウで再生しているライブビデオをPCに録画します。ビデオ形式とストレージパスは、 システム設定 で設定できます。
C	デジタルズームです。有効にすると、マウスをドラッグして画像上に領域を指定してズームインをオンにし、スクロールホイールを使用してズームインまたはズームアウトできます。
D	スピーカー音量を調整し、PC用ではミュートすることもできます。
E	双方向音声です。
F	インスタント再生を開始します。現在のウィンドウで直近5分30秒間で再生されていたライブビデオを再生します。再生は最後に一時停止し、その後はライブビデオを手動で開始する必要があります。
G	<p>POS OSDのオン/オフを切り替えます。有効にすると、POSがNVRを介してカメラに接続されている場合、POS OSDがライブビューに表示されます。</p> <p>POS OSDは、システム設定で位置、サイズ、色、継続時間を設定することができます。</p> <p>注意：</p> <p>NVRのWebインターフェイスでPOSの基本情報を設定すると、以降、クライアントでPOS情報を表示することができます。</p>
H	アラーム出力をトリガーします。NVR/IPCを外部デバイスに接続する必要があります。例えば、IPCのアラーム出力インターフェイスがランプに接続されている場合、このボタンでランプのスイッチを制御することができます。
I	現在のビデオのストリームタイプ、ビット・レートおよび解像度。



注意！

- カメラがPTZカメラの場合、ツールバーに  が表示されます。このボタンをクリックすると、[PTZコントロールパネル](#)が開きます。
- カメラが魚眼カメラの場合、ツールバーに  が表示されます。このボタンをクリックすると、[魚眼レンズコントロールパネル](#)が開きます。
- カメラが多重センサーカメラの場合、ツールバーには  が表示されます。[トラッキングモード](#)を有効化するにはこのボタンをクリックしてください。
- カメラにボックスドームのリンケージが設定されている場合、ツールバーには  が表示されます。このボタンをクリックすると、[ボックスドームのリンケージ](#)が開きます。

6.2.3 ライブビューショートカットメニュー

ライブビューウィンドウを右クリックすると、ショートカットメニューが表示されます。メニュー上のいくつかの項目は、ライブビューツールバーおよびウィンドウツールバーと同じ機能を提供します。一部については以下の表で説明します。

パラメータ	説明
ストリームのタイプ	現在のウィンドウのストリーム種別を選択します：自動、メイン、サブ、およびサードストリーム（オプションはデバイスによって異なる場合があります）。 注意： サブストリームとサードストリームは、利用できない場合は表示されません。
手動アラーム	手動でアラームをトリガーします。 注意： 最初にトリガーするアクションを設定しておくことをお勧めします（ アラーム起動型アクションの設定 参照）。このボタンをクリックすると、アラームが生成され、設定されたアクションがトリガーされます。
カメラ情報	ディスプレイフレームレート、解像度、ビットレート、ビデオ圧縮形式、およびパケットロス率を表示します。
システム設定	システム設定ウィンドウを開きます（ システム設定 を参照）。



注意！

デフォルトのストリーム種別は自動です。

- ローカルデバイスの場合、クライアントは画面レイアウトにしたがってストリーム種別を選択します。
 - 4 ウィンドウ以下：メインストリーム
 - 4～16 ウィンドウ（16 を含む）：サブストリーム
 - 16 を超えるウィンドウ：第3ストリーム
- クラウドデバイスの場合、デフォルトはサードストリームです。

6.3 PTZコントロール

PTZ カメラの回転方向と速度、パン/チルト/ズーム、フォーカスを制御します。このソフトウェアは、3D ポジショニング、プリセット、パトロール機能など、他の機能も提供します。

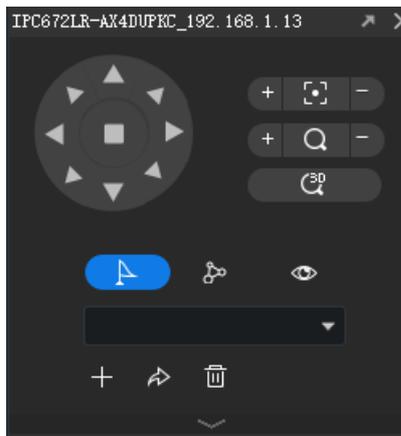


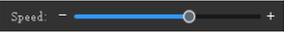
注意！

PTZ コントロールは PTZ カメラでのみ使用でき、カメラの機能とサポートするプロトコルによって異なる場合があります。たとえば、一部のメーカーは、ワイパーやメニューなどの特定用途のために特定のプリセットを予約しています。使用前にカメラの仕様をご覧ください。

6.3.1 PTZ コントロールパネル

ライブビューウィンドウツールバー上で  をクリックすると、PTZ コントロールパネルが開きます。このパネルは折りたたんだり展開したりできます。  をクリックすると、左にコントロールパネルを移動させることができます。

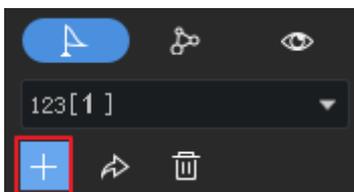


パラメータ	説明
	<p>回転方向を制御するか、回転を停止します。</p> <p>ヒント：</p> <ul style="list-style-type: none"> • ショートカット PTZ コントロールを使用してカメラを回転させることもできます。ライブビューウィンドウにマウスポインタを置き、ポインタの形状が  のように変わったら、左ボタンをクリックして長押しすると、カメラが回転します。 • System Configuration > Audio & Video へ移動すると、Shortcut PTZ Control を有効/無効にできます。 • 3D ポジショニングが有効な場合、ショートカット PTZ コントロールは無効です。
	<p>フォーカスとズームを調整します。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> • ライトを制御します。 • ワイパーを制御します。 • IR を制御します。 • ヒーターを制御します。 • 除雪機能を制御します。
	<p>回転速度を調整します。</p>
	<p>タブをクリックすると、3Dポジショニングを有効化/無効化します。3Dポジショニングが有効になっている場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 画像の任意の場所をクリックすると、カメラが自動的にその方向に回転します。 • マウスを上から下にドラッグすると選択した領域にズームインします。下から上にドラッグするとズームアウトします。
	<p>プリセットタブです。</p>
	<p>パトロールタブです。</p>
	<p>自動ガードタブです。</p>

6.3.2 プリセット

PTZ カメラの状態を保存するプリセットを追加できます。必要に応じて、ボタンを 1 回クリックするだけで、以前に設定した位置にカメラを回転できます。プリセットは、プリセットパトロールの設定にも使用されます ([プリセットパトロール](#) 参照)。

1. カメラを目的の方向に回転させます。

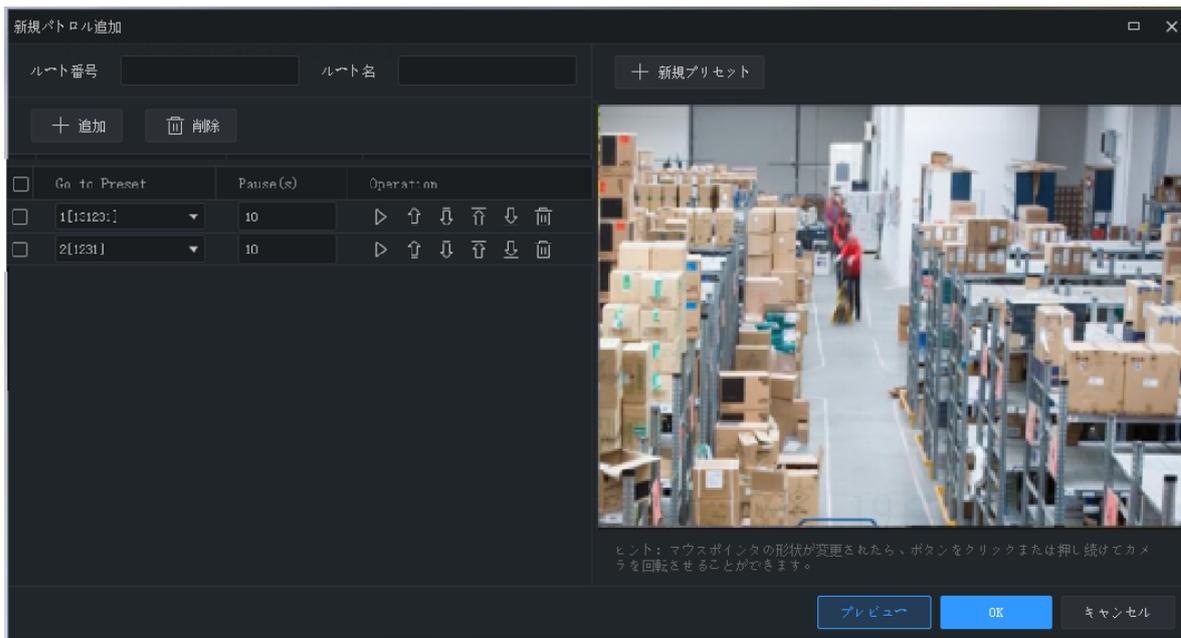
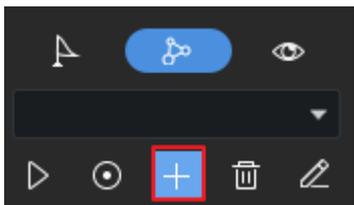


2. **Preset** タブで **Add Preset** をクリックします。使用されていないプリセット番号を入力してください。使用されている番号を入力すると、既存のプリセットは新しいプリセットに置き換えられます。

6.3.3 プリセットパトロール

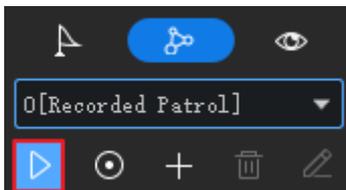
カメラは、設定された順序で複数のプリセットに沿ってパトロールし、一定時間、各プリセットに留まります。プリセットパトロールルートはプリセットで構成されているため、最初に必要なすべてのプリセットを追加しておく必要があります ([プリセット](#)参照)。

1. **Patrol** タブで **Set Patrol** をクリックします。



2. **Add** をクリックし、プリセットを選択し、カメラがその位置に留まる時間の長さを設定します。必要なすべてのプリセットに対してこの手順を繰り返します。
3. **Set Top**、**Up**、**Down**、**Set Bottom** ボタンを使用して、カメラパトロール内での順序を調整できます。

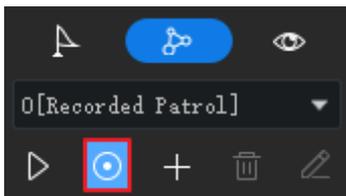
4. **Save** をクリックします。



5. パトロールルートがパトロールルートリストに表示されます。**Start Patrol** をクリックするとカメラは設定したプリセットに沿ってパトロールを開始します。

6.3.4 録画パトロール

ユーザーがカメラを操作している間、ソフトウェアがカメラの移動軌跡と状態を記録し、パトロールルートとして保存します。現在、録画パトロールルートが1つのみサポートされています。



1. **Start Recording Patrol Route** () をクリックしてください。
2. 方向ボタンまたはショートカット PTZ コントロールを使用して、カメラを目的の方向に回転し、必要な時間だけ静止させます。必要に応じてズームとフォーカスを調整してください。
3. **Stop Recording Patrol Route** をクリックします。録画パトロールルートがパトロールルートリストに表示されます (名前は 0 [Recorded Patrol] となります) 。
4. **Start Patrol** () をクリックしてください。カメラはパトロール中に実行したアクションを繰り返します。

6.3.5 自動ガード

自動ガードを有効にすると、指定された時間内に操作が行われなかった場合、カメラは設定されたとおりにアクション (巡回の開始またはプリセットへ移動) を実行します。



6.4 魚眼コントロール

目的の画像を取得するために、魚眼をコントロールし、マウントモードとディスプレイモードを設定できます。

- マウント：天井、壁、デスクトップ
- ディスプレイモード：オリジナル画像、360° パノラマ+1PTZ, 180° パノラマ、魚眼+3PTZ、魚眼+4PTZ、360° 魚眼+6PTZ、魚眼+8PTZ、パノラマ、パノラマ+3PTZ、パノラマ+4PTZ、パノラマ+8PTZ（オリジナル画像をクリックすると歪曲補正モードから通常モードに切り替わります）。



注意！

- 魚眼コントロールボタンは、魚眼カメラでのみ使用できます。
- 歪曲補正モードでは、PTZ ウィンドウをクリックしてからマウスを使用して画像をドラッグするか、スクロールホイールを使用してズームイン/ズームアウトできます。または、パノラマウィンドウをクリックしてから、境界領域をドラッグして、ズームインまたはズームアウトします。
- 歪曲補正モードではデジタルズームは無効になり、デジタルズームボタンは非表示になります。デジタルズームが有効になっているときに歪曲補正モードに切り替えると、デジタルズームは自動的に無効になり、画像は元のサイズに戻ります。
- 解像度が D1 未満の場合、歪曲補正モードは使用できません。魚眼レンズコントロールボタンはグレーアウトされます。

6.5 トラッキングモード

トラッキングモードで、多重センサー・カメラのメインストリームを再生すると、カメラはセットアラームルールをトリガーするオブジェクトを自動的に追跡します。

1. ライブ動画または再生ウィンドウ・ツールバーで  をクリックします。ウィンドウはパノラマ画像を表示する大きな 1 つのウィンドウと、PTZ 画像を表示する多数の小さなウィンドウへ分割されます。パノラマ画像のボックスが PTZ 画像と一致します。
2. 必要に応じて以下の操作を実行します:
 - 対応する PTZ 画像の範囲を変更するにはパノラマ画像のボックスをドラッグしてください。
 - ボックスあるいは PTZ 画像にマウスホイールをスクロールすると拡大または縮小されます。



注意！

- 自動トラッキング機能を使用するには、カメラの周辺保護機能を最初に有効化する必要があります。
- トラッキングモードを有効化するとデジタル・ズームが無効化されます。
- Mac OS では、トラッキングモードは使用できません。

6.6 ボックス-ドームのリンクージ

監視範囲内の具体的な詳細を素早く、クリアに表示します。

本機能では、ボックスカメラとドームカメラの機能が統合されており、ボックスカメラで全体の状況を監視し、ドームカメラで具体的な詳細を拡大表示します。



注意！

本機能を使用する前に、デバイスの Web インターフェースでパノラマリンクージを設定し、マークキャリブレーションを実行してください。

ライブビューウィンドウツールバーの  をクリックし、必要に応じて、以下の操作を行います。

- (デフォルト) 自動追跡 (): ドームカメラ、ボックスカメラのライブビデオにおいて、マウス操作は無効です。
- 手動追跡 (): ボックスカメラのライブビュー画像で移動する物体をクリックすると、ドームカメラが回転して物体を追跡することができます。
- ドラッグでズーム (): ボックスカメラのライブビュー画像をドラッグすると、ドームカメラが特定のエリアで回転し、そのエリアがズームされます。
- リンク (): ボックスカメラのライブビュー画像でクリックすると、ドームカメラが自動的にその位置に回転します。

また、右クリックメニューからも上記の機能を利用することができます。ボックスドームのリンクページとデジタルズームは同時に起動できません。

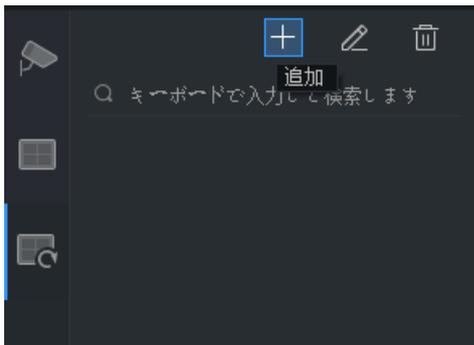
6.7 シーケンスディスプレイ

6.7.1 シーケンスリソース

グループ内のカメラからのライブビデオをウィンドウで1つずつ再生します。最初にシーケンスリソースを作成しておく必要があります。

シーケンスリソースの作成

1. **Live View** ページ上で **Sequence Resource** タブをクリックし、**Add** ボタンをクリックします。コントロールパネル上で **Sequence Resource** をクリックしてシーケンスリソースを追加することもできます。



2. シーケンスリソース名、シーケンス間隔、含めるビデオチャンネル、ストリーム種別、プリセット (PTZ カメラ) など、ウィンドウ内の設定を完了してください。必要に応じ、**Top**、**Up**、**Down** および **Bottom** ボタンをクリックしてシーケンスを調整してください。



3. OK をクリックします。

シーケンスリソースの再生

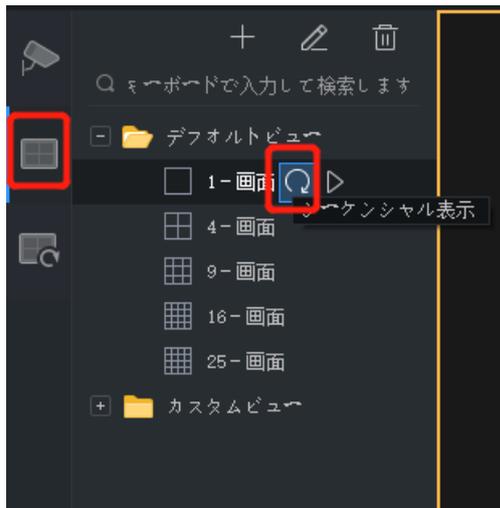
Sequence Resource タブ上でシーケンスリソースをダブルクリックすると、シーケンスディスプレイが開始します。

6.7.2 シーケンスビュー

デフォルトビューシーケンス

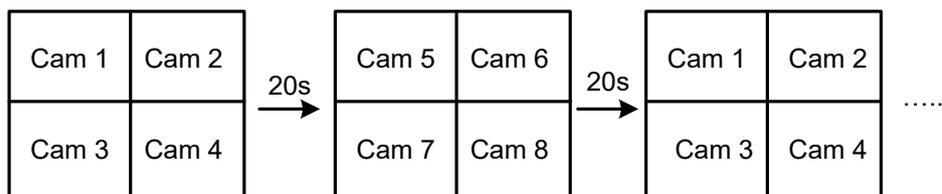
デフォルトビューに基づいて、カメラリストのカメラからライブビデオを順番に再生します。

1. View タブで **Sequence Display** ボタンをクリックしてスプリットビューを作成します。ここでは **4-Split** ビューを例にとります。



2. シーケンスの表示間隔を設定します。

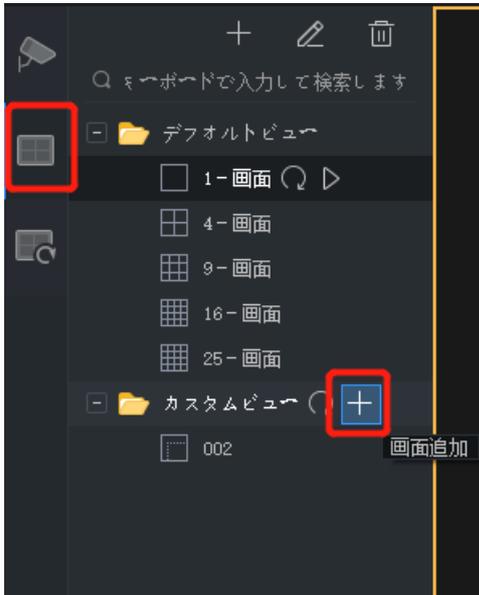
3. 8 台のカメラがあり、シーケンス間隔が 20 秒に設定されているとします。その場合、シーケンスは以下に示すように表示されます。



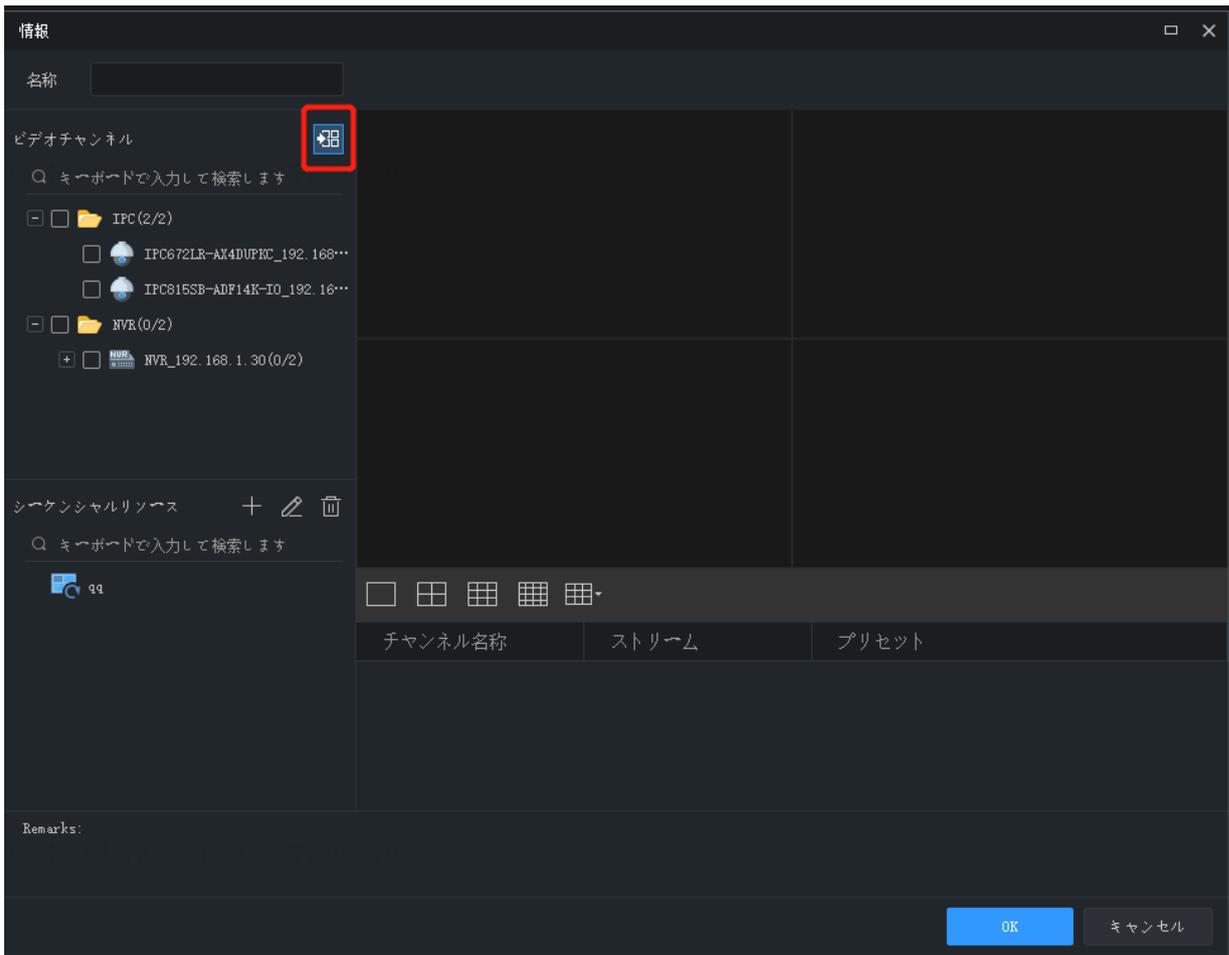
カスタムビューシーケンス

カスタムビューでライブビデオを順番に再生します。

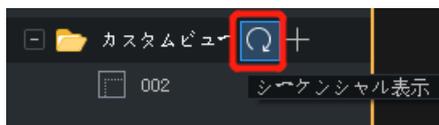
1. カスタムビューを作成するには、**Add View** をクリックします。



2. ビュー名、ウィンドウレイアウト、カメラ/シーケンスリソースとウィンドウ間のバインド(カメラ/シーケンスリソースをウィンドウにドラッグするか、**Batch Add** をクリック)、ストリーム種別(カメラのみ)、プリセット (PTZ カメラのみ) など、ウィンドウ内の設定を完了してください。設定が完了したら **OK** をクリックします。



3. 上記の手順を繰り返して、必要なカスタムビューをすべて作成します。
4. **Sequence Display** ボタンをクリックし、作成したカスタムビューの順序を確定します。



7 録画と再生

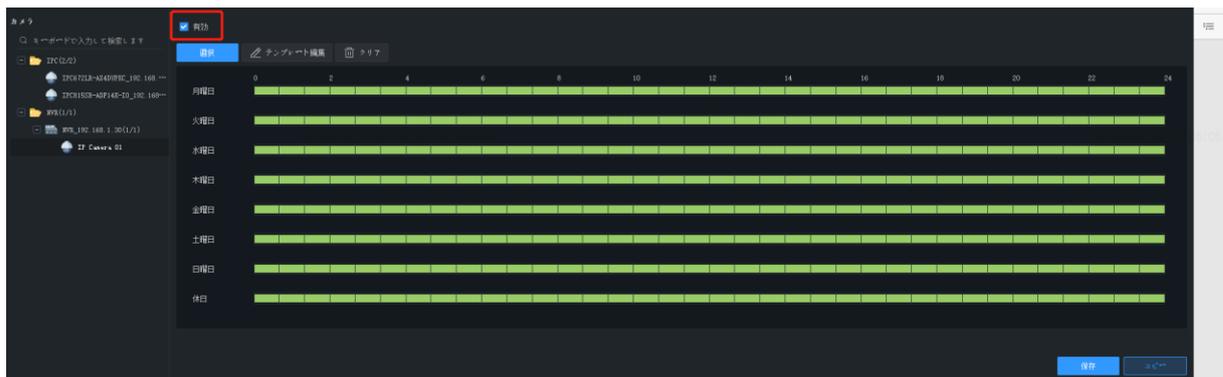
ビデオの録画および再生またはダウンロード用に検索を行うことができます。

7.1 録画スケジュールの設定

NVR に録画スケジュールを設定して、ビデオを自動的に録画できます。この機能は、NVR 接続カメラでのみ利用できます。録画されたビデオは、PC ではなく NVR に保存されます。コントロールパネルの **Recording Schedule** をクリックして次の手順を実行してください。

7.1.1 毎日 24 時間録画スケジュールの設定

テンプレートを使用して、毎日 24 時間の録画スケジュールを設定します。



1. 録画スケジュールを設定するカメラを選択してください。
2. **Enable** チェックボックスが選択されていることを確認してください。
3. **Select** ボタンをクリックし、**All Day** テンプレートを選択します。カレンダーの緑色表示は、ビデオが録画される期間を表します。
4. **Save** をクリックします。

7.1.2 録画スケジュールのカスタマイズ

毎日 24 時間の録画スケジュールをベースにカスタマイズできます。

1. 緑色の部分をクリックまたはドラッグして消去するか、空白領域をクリックまたはドラッグして追加します。右上の **Clear** ボタンをクリックすると、すべての時間帯がクリアされます。

- 手順 1 で説明した方法に加え、開始時間と終了時間を手動で入力することもできます。1 日につき、最大 8 つの時間帯を設定できます。



- 1 日の設定が完了したら、ドロップダウンリストから選択して、設定を他の日にコピーできます。たとえば All を選択します。
- Save をクリックすると、選択されたカメラの設定が完了します。
- 他のカメラで同じ録画スケジュールを作成するには、Copy To をクリックします。



注意！

All Day および Work Day テンプレートに加えて、8 つのテンプレートをカスタマイズして、さまざまな録画スケジュールを保存できます。

7.2 ビデオの手動録画

ウィンドウツールバー上の Start Local Recording () および Stop Local Recording () ボタンをクリックして、ライブビデオを PC にローカル保存できます。ストレージパスとビデオ形式は、[システム設定](#) で設定します。



7.3 再生

コントロールパネルの Playback をクリックすると、デバイスの録画やローカル録音を含む録画の検索および再生ができます。

7.3.1 デバイス録画の再生

デバイスの録画とは、NVR またはカメラにマウントされている SD カードに保存されているビデオを指します。デバイス録画を検索する場合、表示される時間は、PC ではなくデバイスのシステム時間と同じものです。GUI と操作は、選択した再生種別によって異なる場合があります。一般的な手順を説明するために、例として通常の録画再生を取り上げます。

手順	説明
	<ol style="list-style-type: none"> 録画ソース（デバイス録画）を選択します。 再生種別を選択します。 カメラを選択します。 検索時間を選択または設定します。デバイスが別のタイムゾーンにある場合は、デバイスのローカル時間を使用してください。 Search をクリックします。 <p>注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> 手順 2 では、サブタイプを選択することで、イベント録画または VCA 録画を検索できます。 手順 3 では、複数の選択が許可されている場合、最大 16 台のカメラがサポートされます。 手順 4：カレンダーには、選択したカメラの検索結果が表示されます（青は通常の録画、赤はアラーム録画を意味します）。この機能は、通常録画再生モードとスマート録画再生モードでのみ使用できます。 システム設定 で再生モードを SD に設定した場合、異なる透明度でビデオが保存されていないと、検索結果に SD video does not exist と表示されます。HD モードに切り替えて、再度お試しください。NVR に保存されているビデオのみ、再生モードの切り替えに対応しています。

7.3.2 ローカル録画と画像

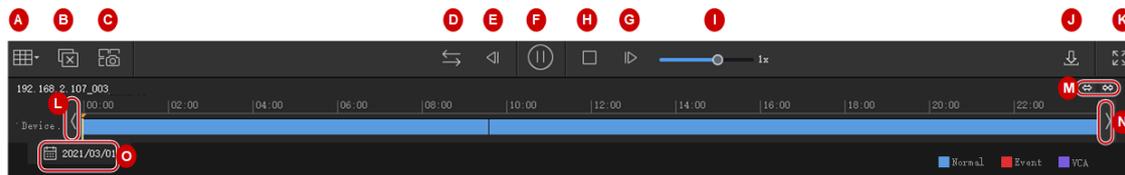
PC に保存されているビデオや画像を検索して表示します。ローカル録画の時間は、PC の時間です。

手順	説明
	<ol style="list-style-type: none"> 録画ソース（ローカル録画）を選択します。 カメラを選択します。 検索時間を選択または設定します。 録画または画像のどちらを検索するか選択します。デフォルトでは、録画の検索になっています。 Search をクリックします。 <p>注意：</p> <p>手順 3：カレンダーには選択した（複数可）カメラの検索結果が表示され、録画された日付が青く表示されます。</p>

7.3.3 再生コントロール

右側のリストでファイルをダブルクリックすると、再生を開始します。または、タイムラインをクリックして、対応する時間から再生を開始することもできます。

再生ツールバー



ボタン	説明
A	ウィンドウレイアウトを設定します。
B	すべてのウィンドウを閉じます。
C	クリックすると、すべてのウィンドウで画像のスナップショットを撮ります。
D	クリックすると同期再生モードに切り替えます。同期再生モードでは、操作（たとえば、一時停止、再開、停止、速度の調整、タイムラインをクリックしてそのポイントから再生を開始する）は、すべての再生ウィンドウに対して行われます。 注意： 同期再生中の頻繁な操作（一時停止/再開、速度の調整など）は、同期パフォーマンスに影響する場合があります。
E/H	フレームごとに再生します。クリックすると画像の前/次のフレームを再生します。
F	一時停止/再開します。
G	停止
I	再生速度を調整します。
J	録画をダウンロードします。
K	全画面モードに切り替えます。Esc を押すと解除します。
L/N	タイムラインを前後に移動します。
M	タイムラインを拡大/縮小します。
O	クリックするとカレンダーが開き、別の日付の録画を検索できます。

再生ウィンドウツールバー

ウィンドウツールバーは、マウスのカーソルが再生中のウィンドウ上にあるときに表示されます。ツールバーの操作は、このウィンドウ専用です。



Table 7-1 再生ウィンドウツールバー

ボタン	説明
A	スナップショットを撮影して、PCに保存します。画像形式とストレージパスは、システム設定で設定できます（ システム設定 を参照）。
B	デジタルズームです。有効にすると、マウスをドラッグして画像上に領域を指定してズームインをオンにし、スクロールホイールを使用してズームインまたはズームアウトできます。
C	ビデオをクリップしてダウンロードします。
D	PCのスピーカーの音量をミュートまたは調整します。
E	現在の再生モード、ビットレートと解像度です。



注意！

- カメラが魚眼カメラの場合、ツールバーに  が表示されます。このボタンをクリックすると、魚眼レンズコントロールパネルが開きます。
- カメラが多重センサーカメラの場合、ツールバーには  が表示されます。トラッキングモードを有効化するにはこのボタンをクリックしてください。

右クリックメニュー

再生中にウィンドウを右クリックすると、メニューが表示されます。メニューの多くの機能は、ツールバーのボタンと同じです。

異なる透明度で NVR に保存されたビデオについては、右クリックメニューから **Playback Mode** をクリックして、HD または SD ビデオに切り替えることができます。

ビュー再生

通常の録画再生モードでビュー再生を行うと、設定されたウィンドウレイアウトのウィンドウにバインドされたカメラの録画が再生されます。**View** タブでカスタムビューを選択し、カレンダーで日付を選択して、**Search** をクリックします。

この機能はデバイス録画のみで利用できます。

7.3.4 スマート検索

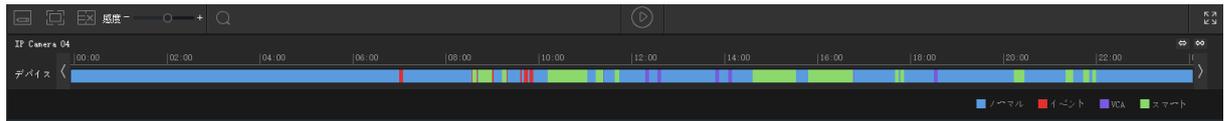
ビデオの録画の際に、NVR は、さまざまな画像の領域に動体を記録します。スマート検索を使用すると、画像中に動体が含まれるビデオを見つけることができます。



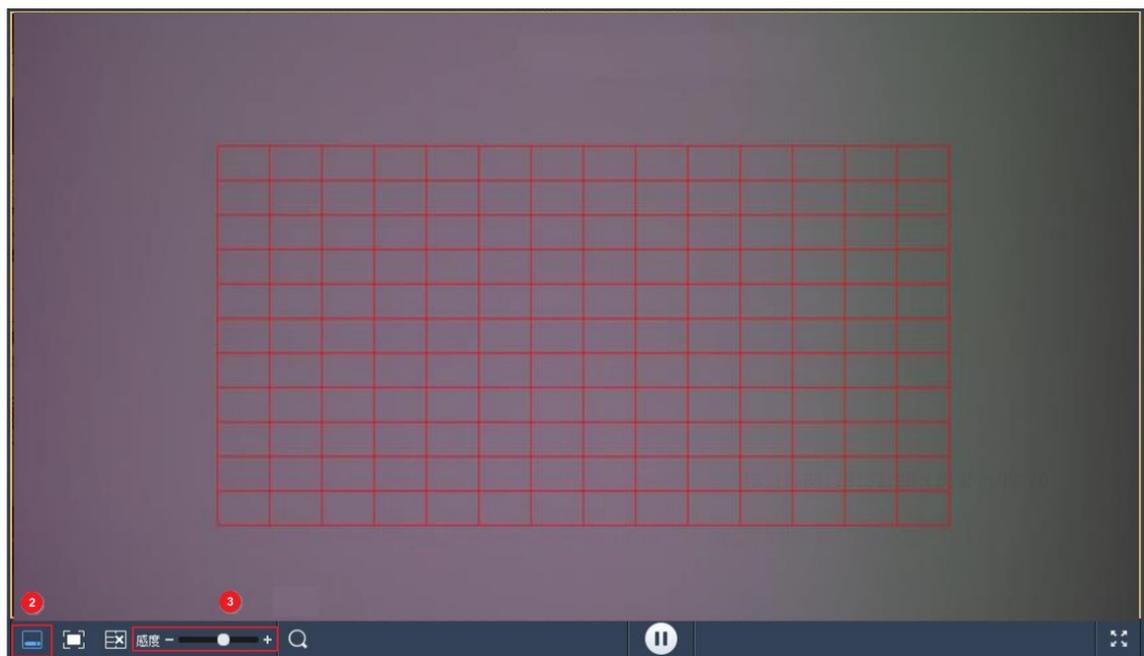
注意！

この機能はソフトウェアが、NVRの一部モデルおよびバージョンで作動する場合に限り、利用可能です。

1. **Device** タブで、ドロップダウンリストから **Smart Recording Playback** を選択します。カメラを選択してから、カレンダーで日付を選択します。
2. タイムラインに検索結果が表示されます。緑はビデオ中で画像が変化している部分を意味し、緑の部分は通常速度で再生されます。他の無関係な部分は高速で再生されます。



3. デフォルトでは、スマート検索によって画面全体が検索されます。**Draw Area** ボタン (1) をクリックして検索領域をドラッグするか、検索領域をクリックして編集できます (赤いグリッドで囲まれた部分)。

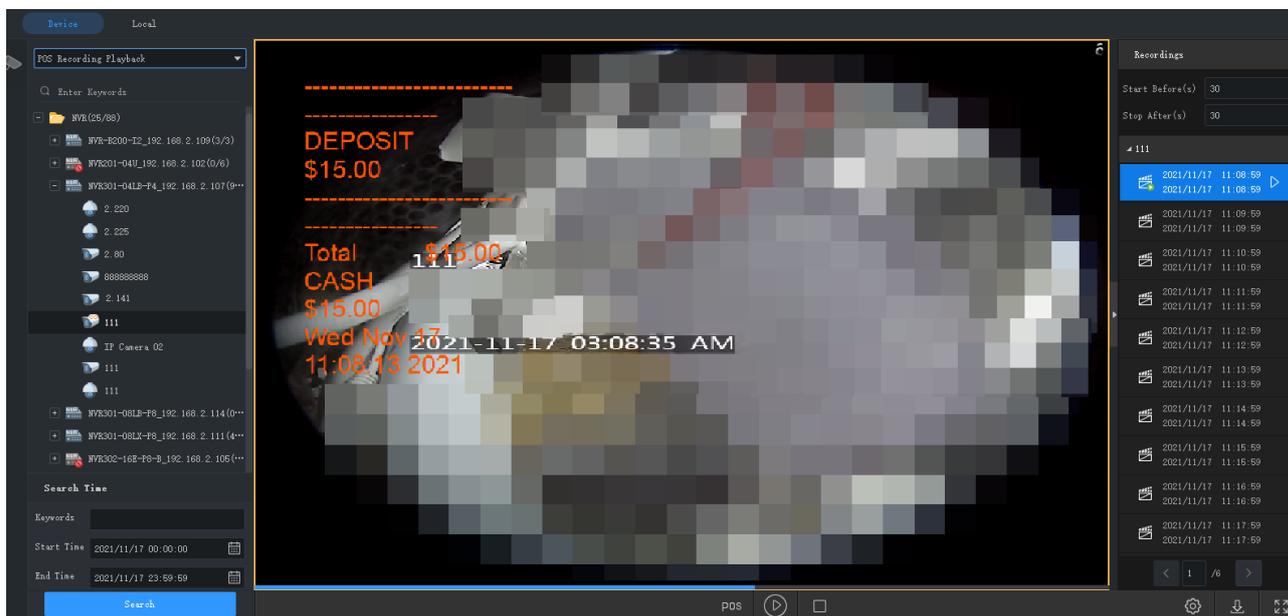


4. **Finish Drawing** ボタン (2) をクリックして必要に応じて検索感度 (3) を調整し、**Search** ボタンをクリックして再検索します。

7.4 POS録画再生

使用するカメラを選択し、POS情報のキーワードを入力し、開始時刻と終了時刻を設定して、**Search** をクリックします。

POS情報が報告された時刻が右側のリストに表示されます。ビデオ全体を表示する前後の時間を設定することができます。



POS OSD の位置、サイズ、色、継続時間を設定するには、[System Configuration](#) を参照してください。

7.5 録画ダウンロード

7.5.1 録画のダウンロード

次の操作で、デバイスからパソコンに録画をダウンロードします。ダウンロードの進行状況は、ツールバーの下部にリアルタイムで表示されます。

- 検索後、録画リスト（[再生ツールバー](#) を参照）の **Download** ボタン（）をクリックして、録画をダウンロードします。スマート検索では、録画のダウンロードができません。
ダウンロード速度の選択：
 - a. 高速：ネットワーク帯域幅や PC パフォーマンスの消費が大きく、他のサービスに影響を与える可能性があります。このオプションは、他のプログラムやサービスが正常に動作することを前提としないシナリオに推奨されます。
 - b. 標準速度：ネットワーク帯域幅や PC パフォーマンスの消費が小さく、他のサービスに影響を与えることは少ないです。このオプションは、他のプログラムやサービス向けにパフォーマンスリソースとネットワーク帯域幅を十分に確保する必要があるシナリオに推奨されます。



注意！

POS 録画再生から POS 情報が報告された瞬間を検索するには、ビデオ全体を表示する前後の時間を設定する必要があります。

- ウィンドウツールバーで **Start Clipping** と **Stop Clipping** のボタンを使用する（[再生ウィンドウツールバー](#) をご覧ください）。

- 右クリックメニューを使用する。
- GUI の左下にある **Recording Download** ボタン (📄) をクリックしてデバイスの録画を検索し、録画ファイルをダウンロードします。録画は時間別にダウンロードすることもできます。

7.5.2 ダウンロードタスクの管理

1. GUI の左下にある **Task Management** ボタン (📄) をクリックして、ダウンロードタスクを管理します。
2. **Recording Download** タブで、ダウンロードタスクを表示および管理します。タスクの操作は、ダウンロード状態により異なります。タブでは、タスクの停止、削除、再開や、ダウンロードした録画の再生、さらにフォルダを開いてダウンロードした録画を表示することができます。



注意！

- ダウンロードタスクを終了しても、すでにダウンロードされた録画はパソコンから削除されません。
- **System Configuration > Audio & Video > Recording** でファイルフォーマットとパスを設定できます。
- ダウンロードした録画を再生するには、ビデオプレーヤーが必要です。

8 ビデオウォール

物理的ビデオウォールでビデオを再生します。

ビデオウォールは、ビデオウォールの作成に使用されるデバイスに応じて、DX ビデオウォールとデコーディングカードビデオウォールに分割されます。

- DX ビデオウォール：デコーディングデバイスによって作成されるビデオウォール。
- デコーディングカードビデオウォール：NVR のデコーディングカードによって作成されるビデオウォール。



注意！

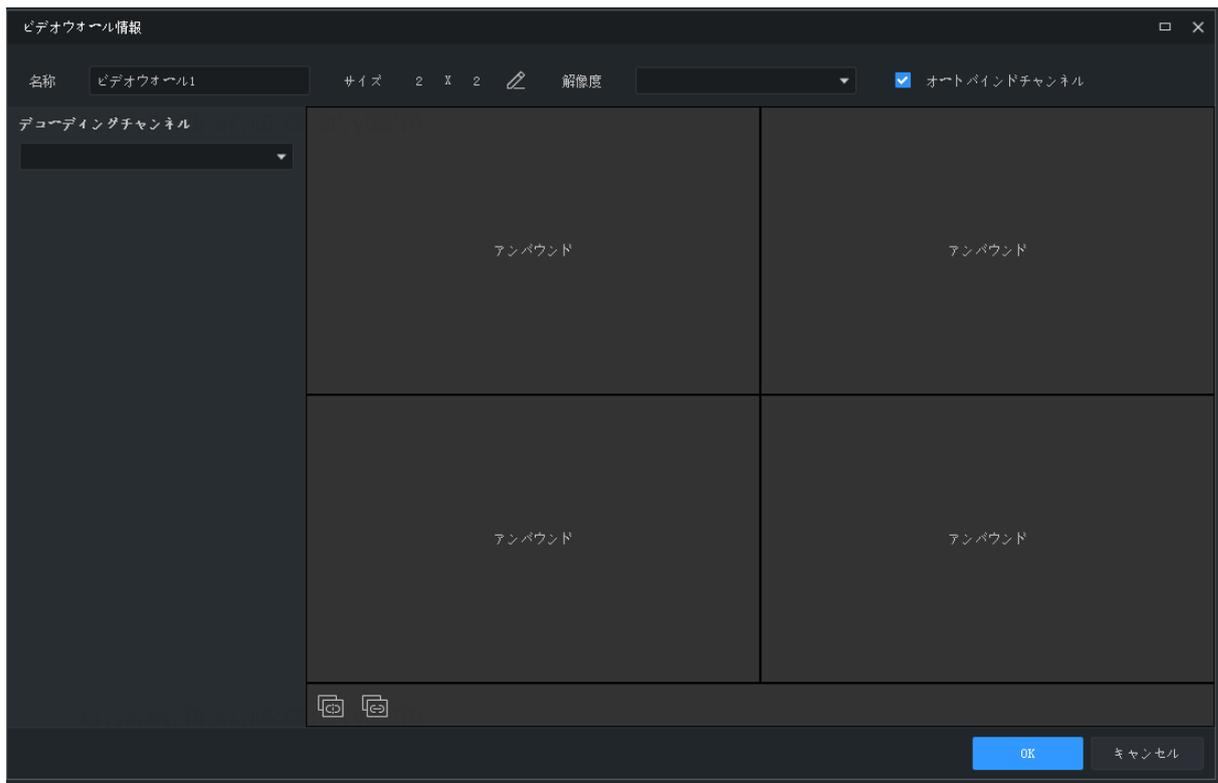
- **Device Management > Device** で、管理者としてデコーディングデバイスまたは NVR を追加します。
- サポートされるビデオウォールの数、実行できる操作、利用可能な機能は、デコーディングデバイスやバージョンによって異なります。

8.1 ビデオウォールを追加

コントロールパネルで **Video Wall** をクリックします。初めて使用する場合は

 ビデオウォール

をクリックし、ビデオウォールのタイプを選択します。ビデオウォールがすでに存在する場合、ビデオウォール名の右の  をクリックしてビデオウォールを追加します。



1. ビデオウォール名を入力します。
2. ビデオウォールの作成に使用したいデコーディングデバイスを選択します。ソフトウェアは自動的にビデオウォールのサイズを設定し、ウィンドウにデコーディングチャンネルをバインドします。画面にデコーディングチャンネル名が表示されます。
3. ビデオウォールのサイズ、解像度、またはデコーディングチャンネルとウィンドウの間のバインディングを編集します。必要に応じて **Unbind All** () または **Bind All** () ボタンを使用します。

4. OK をクリックします。

注意：

- ビデオウォールのサイズが物理的ビデオウォールと一致することを確認します。
- 必要に応じて小ピクセルピッチ LED を設定します。特殊 LED 幅は最後の列の幅です。特殊 LED 長さは最後の行の高さです。単位はピクセルです。

5. ビデオウォールを編集または削除するには、ビデオウォール名の横の  をクリックします。

8.2 ビデオウォールの操作

8.2.1 ビデオウォールでビデオを再生する

ビデオウォールでビデオを再生する前に、オンラインカメラの後の  にカーソルを置くと、ライブビデオをプレビューできます。

1. ウィンドウにカメラをドラッグすると、ビデオウォールでライブビデオの再生が始まります。



注意！

ビデオウォールによっては、まず画面でウィンドウを開く必要があります。使用可能な機能は実際のビデオウォールによって異なります。たとえば、画面上でドラッグすると手動でウィンドウが開き、既存のレイアウトを選択するか座標とウィンドウサイズを選択すると自動的に開きます。



ヒント：複数のカメラやグループでライブビデオの再生を開始する場合、カメラまたはグループを選択し、ウィンドウをクリックしてから、画面で **Play on Screen** または **Play on Wall** をクリックします。

- 画面で再生：1枚のウィンドウで再生されます。
 - ウォールで再生：2枚以上のウィンドウで再生されます。
2. シグナルソース（パソコンなど）を再生するには、**Signal Source** タブをクリックし、希望のウィンドウにシグナルソースをドラッグします。
 3. アラーム起動型ライブビデオを再生するウィンドウを選択するには、ウィンドウを右クリックし、**Set Alarming Window** をクリックします。アラーム起動型ライブビデオが設定されていることを確認します（詳細については [アラーム起動型アクションの設定](#) をご覧ください）。設定をキャンセルするには、ウィンドウを右クリックし、**Cancel Alarming Window** をクリックします。

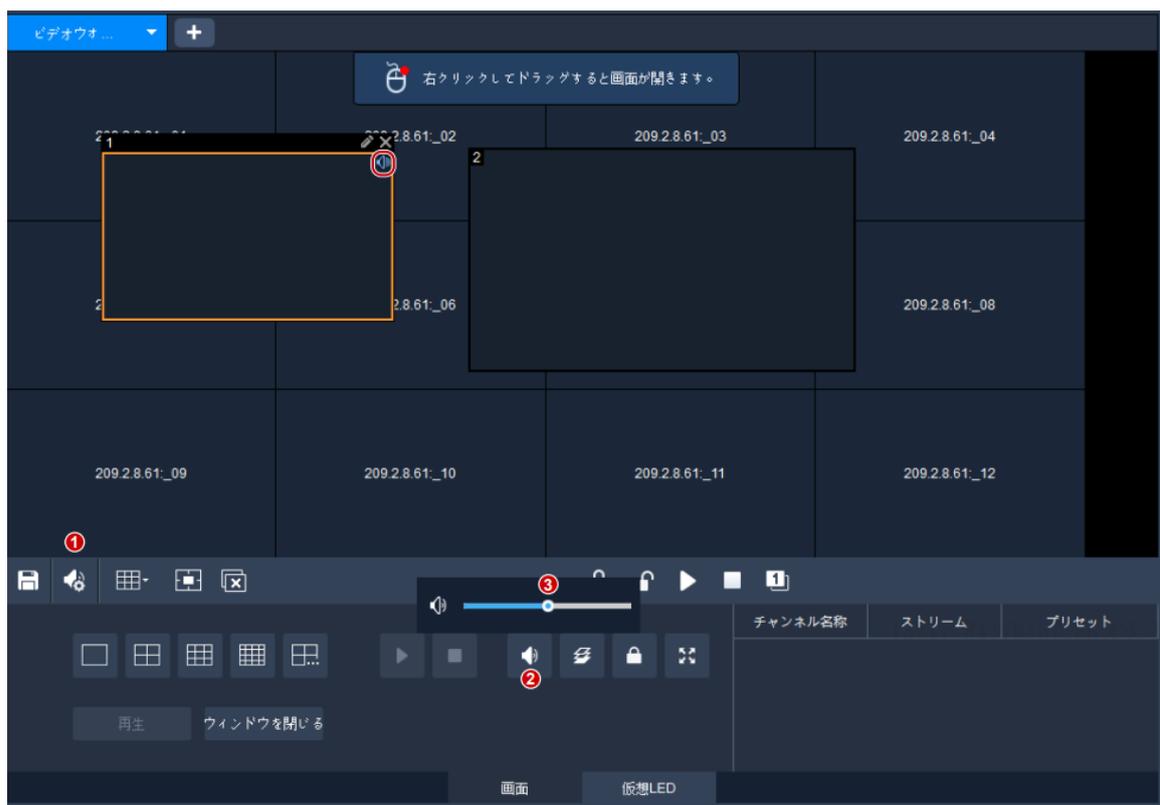


注意！

- アラームウィンドウとして、1枚のウィンドウのみを設定できます。
- NVR のデコーディングカードを使用してビデオウォールを作成する場合、アラーム起動型ライブビデオは、NVR 下のカメラでのみ利用できます。

8.2.2 音声出力

ウィンドウまたは画面で再生されるカメラの音声を出力するには、DX デバイスの音声出力チャンネルを使用します。特定の DX デバイスモデルで作成された DX ビデオウォールのみがこの機能に対応しています。



1. (1) をクリックし、音声チャンネルを選択します。

2. ウィンドウ/画面をクリックし、 (2) をクリック、または右クリックで **Turn Audio On** を選択します。右上にアイコンが表示されますが、これは、音声チャンネルがウィンドウ/画面の IPC の音声を出力していることを意味しています。
3. 必要に応じて出力音量を調整するか、音声をミュートします。

8.2.3 シーケンスリソースの再生

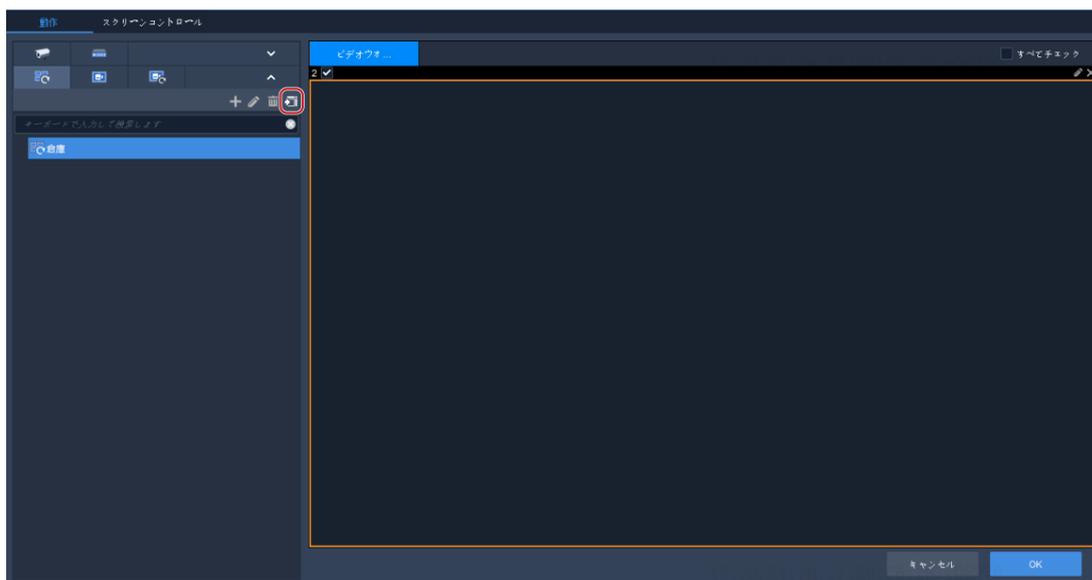
ビデオウォールでシーケンスリソースを再生します。1 枚のウィンドウでのシーケンスビデオ、複数のウィンドウでのシーケンスビデオ、シーケンスシーン、の 3 つのシーケンスモードが利用できます。

1 枚のウィンドウでのシーケンス

Sequence Resource タブで、ウィンドウにシーケンスリソースをドラッグします。

複数のウィンドウでのシーケンス

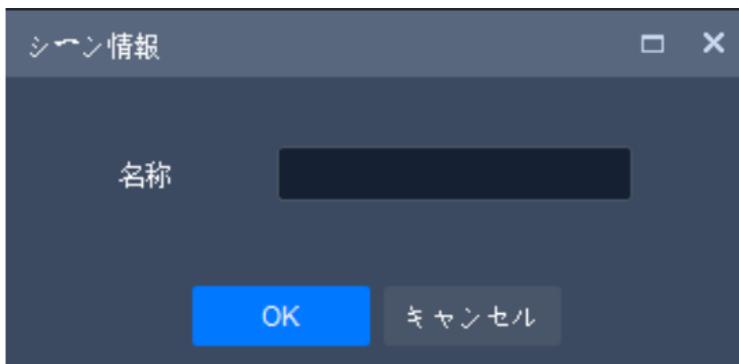
Sequence Resource タブで、シーケンスリソースを選択し、**Play on Screen** をクリックし、ウィンドウを選択します。



シーケンスシーン

シーンとは、画面レイアウト、ウィンドウ、ビデオサービス（ライブビューまたはシーケンス）を含むビデオウォール設定を指しています。シーンでボタンを 1 回クリックすると、ビデオウォール設定を呼び出すことができます。シーケンスシーンでは、設定された時間に応じて、異なるシーンが表示されます。

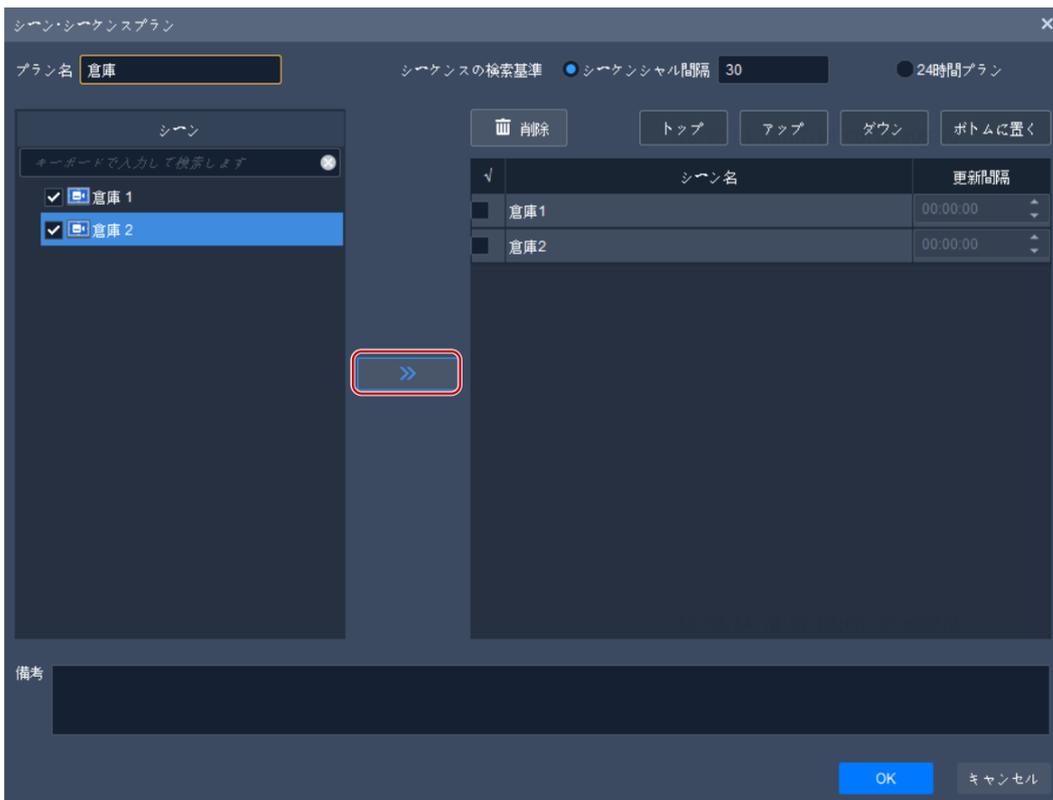
1. 右側の  をクリックするか、**Scene** タブの  をクリックして、シーンを作成します。



2. **Scene Sequence** タブで **+** をクリックして、シーンシーケンスプランを作成します。

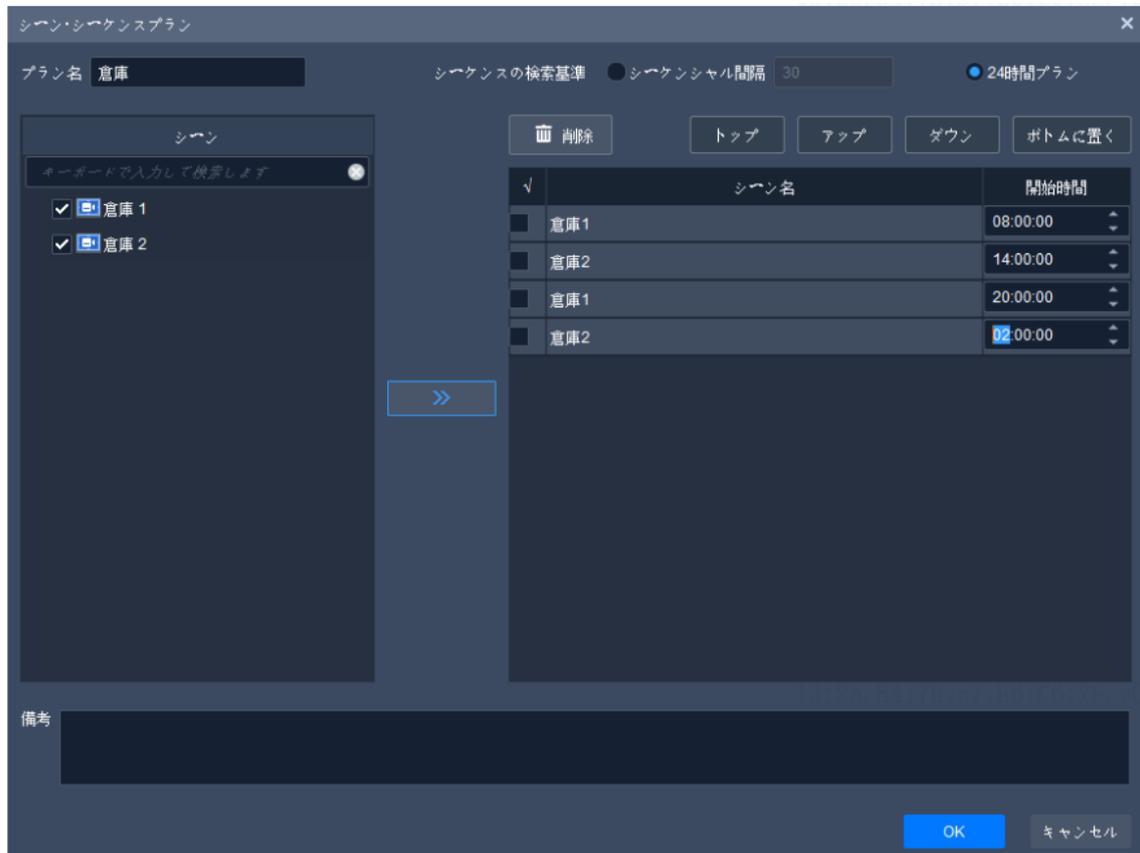


3. シーンを選択してプランにインポートします。

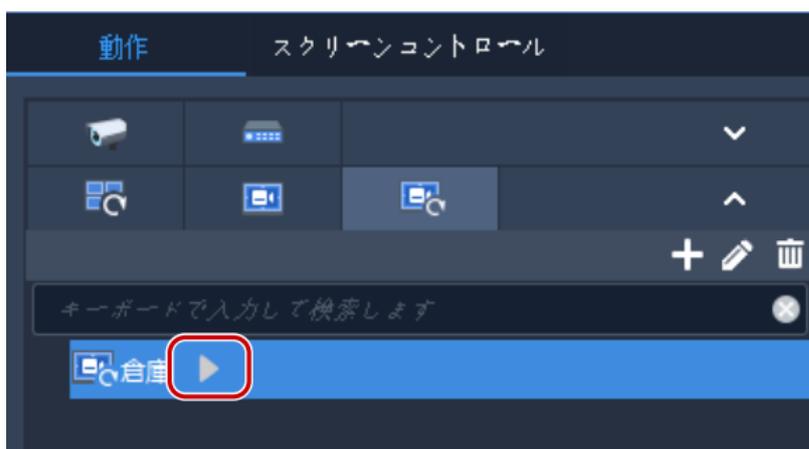


4. シーケンスモードを設定します。時間間隔でシーケンスするか、24 時間シーケンスプランを設定するかを選択できます。

- 時間間隔によるシーケンス：設定された時間間隔（上図の例では 30 秒）でシーンを 1 枚ずつ表示します。
- 24 時間プラン：プランを有効にしてから開始時間を設定します。設定した時間になると、ビデオウォールにシーンが自動的に表示されます。必要に応じてシーンを繰り返し追加できます。



5. シーンシーケンスプランは Scene Plan タブに表示されます。Start をクリックするとシーンシーケンスが始まります。



8.2.4 仮想 LED

仮想 LED は、ビデオウォールの画面上に表示される静的/動的な文字です。

Virtual LED をクリックすると、ビデオウォール画面に文字や時刻をオーバーレイ表示することができます。

仮想 LED を作成するには、ビデオウォールでマウスを右クリックしてドラッグします。次の表を参考に、LED を設定します。一部パラメータはテキスト LED に適用され、一部は時間 LED に適用されます。

ビデオウォールがサポートする仮想 LED の数は、デバイスのモデルによって異なります。

項目	説明
タイプ	<ul style="list-style-type: none"> • テキスト • 時間
X座標(px)	画面上の仮想LEDのX座標を設定します。
Y座標(px)	画面上の仮想LEDのY座標を設定します。
幅	仮想LEDの幅を設定します。
高さ	仮想LEDの高さを設定します。
テキストコンテンツ	ビデオウォール画面上に表示されるテキストを設定します。
時間フォーマット	必要に応じて時間フォーマットを設定します。
日付フォーマット	必要に応じて日付フォーマットを設定します。
表示スタイル	<ul style="list-style-type: none"> • シングルライン表示 • マルチライン表示
フォント	画面上のフォントを設定します。
フォントサイズ	<ul style="list-style-type: none"> • 自動 • カスタム

項目	説明
フォント間隔	<ul style="list-style-type: none"> • 自動 • 1-10x : 1x は 0 文字、2x は 0.5 文字と続きます。文字サイズは、設定されているフォントサイズと同じです。
フォントアライメント	フロントアライメントを水平・垂直に設定します。
フォントの色	画面上のフォントの色を設定します。
背景色	仮想LEDの背景色を設定します。
透明度	仮想LEDの背景の透明度を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • はい : 仮想 LED の背景色は表示されません。 • 番号 : 仮想 LED の背景色が表示されます。
スクロール速度	ビデオウォール画面上に表示されるテキストのスクロール速度を設定します。
スクロールモード	ビデオウォール画面上のテキストのスクロールモードを設定します。

8.2.5 その他のビデオウォールの操作

その他のビデオウォールの操作については下表を参照してください。



ツールバーのボタンは、ビデオウォールのすべてのウィンドウで有効です。

番号	説明
A	シーンを保存する。詳しくは シーケンスシーン をご覧ください。
B	音声管理。音声出力チャンネルを選択する。
C	シーンを結合する（2枚以上の画面を組み合わせて1枚の大きな画面を作成する）。
D	ウィンドウ管理。座標を入力し、カスタムウィンドウの高さと幅で、設定位置にウィンドウを作成する。
E	すべてのウィンドウを閉じます。
F/H	ウィンドウの位置と形状をロック/アンロックする。
G	全部のウィンドウでデコードを開始する。
I	全部のウィンドウでデコードを停止する。
J	クリックすると、上から下、左から右へ、位置に応じて全部のウィンドウに番号が付け直される。ウィンドウの左上にウィンドウ番号が表示される。



ウィンドウコントロール領域。この領域のボタンは、選択したウィンドウのみで有効です。実際に使用できるボタンは、ビデオウォールのタイプとデバイスのモデルによって異なります。

番号	説明
A	画面を分割する。
B	デコーディングを開始する。
C	デコーディングを中止する。
D	音量を設定する。
E	指定したウィンドウを、すべてのウィンドウの一番上に表示するように設定する。
F	指定したウィンドウを、すべてのウィンドウの一番下に表示するように設定する。
G	ウィンドウコントロール領域の表示/非表示。
H	全画面モードでウィンドウが表示される。
I/J	ストリームタイプとプリセットを設定する（PTZカメラのみ）。
K	録画の検索と再生。
L	ウィンドウを閉じる。

8.3 画面コントロール

Screen Control タブで小ピクセルピッチ LED 画面などの画面をオン/オフできます。

クライアントで操作する前に、画面、配電盤（LED 画面用）、サーバーが適切に接続されていること確認してください。

8.3.1 シリアルポートとプロトコルの設定

デコーディングデバイスモデルと画面タイプに応じて、シリアルポートとプロトコルを設定します。

シリアルポート

COM1

プロトコル

UA

画面自動オン/オフ

自動オン 0:00

自動オフ 0:00

保存

スクリーンオン

スクリーンオフ オフ 10 分

8.3.2 設定した時間に自動的に画面をオンまたはオフにする

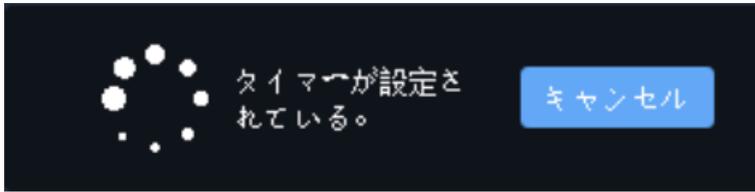
1. **Turn On At** または **Turn Off At** を選択し、自動的に画面をオンまたはオフにする時間を設定します。
2. **Save** をクリックします。設定した時間に自動的に画面がオンまたはオフになります。

8.3.3 手動で画面をオンまたはオフにする

1. **Turn On Screen** をクリックします。直ちに画面がオンになります。
2. **Turn Off Screen** をクリックします。直ちに画面がオフになります。

8.3.4 一定時間後に画面をオフにする

1. **Turn Off In** のチェックボックスを選択し、テキストボックスに時間を記入します。
2. **Turn Off Screen** をクリックします。
3. 下のようなメッセージが表示されます。タイマーが時間切れになると画面が自動的にオフになります。



9 周辺警備



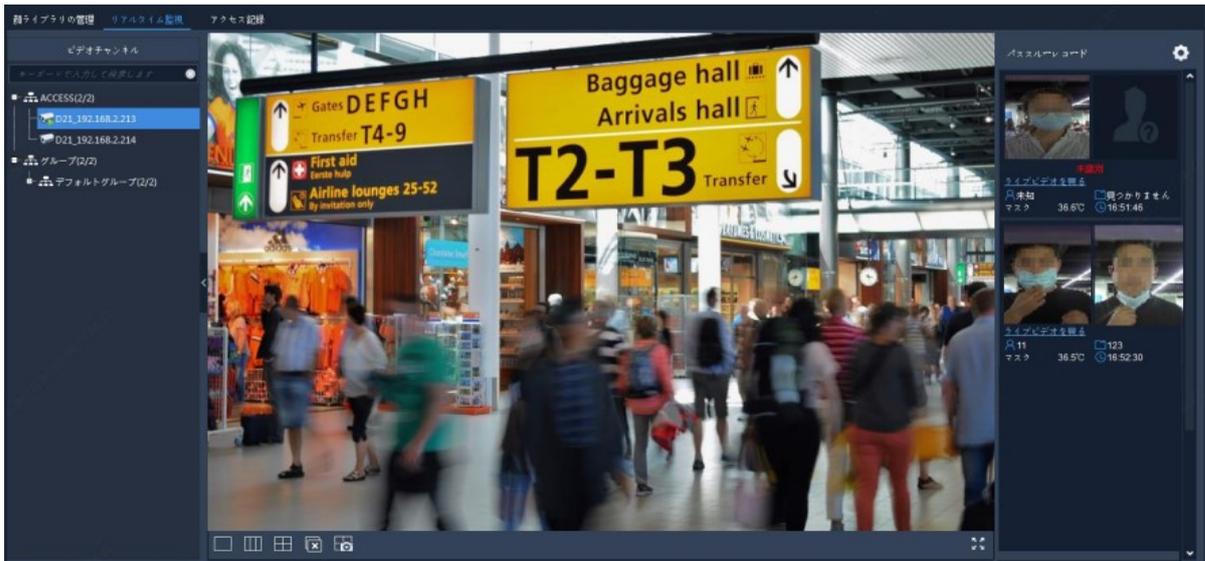
注意！

この機能を利用するには、周辺警備に対応した NVR または IPC が必要とされます。また、あらかじめデバイスに設定する必要があります。現在、クロスライン検知、侵入エリア、入室エリア、退室エリアの 4 つのアラームタイプに対応しています。

9.1 リアルタイム監視

リアルタイム監視画面、スナップショット、周辺警備によってトリガーされた最新アラームが表示されます。

カメラをダブルクリックして、ライブビューを開始します。最大 4 台のカメラを同時に表示することができます。



アラームスナップショットは右側に表示されます。スナップショットは、アラームタイプとオブジェクトタイプでフィルタリングすることができます。Details をクリックすると、詳細なスナップショットやアラームビデオが表示されます。

右上の  をクリックすると、アラームの更新が停止されます。もう一度クリックすると、アラームの更新を開始します。



注意！

- 周辺警備は、周辺警備に対応したデバイスで、かつデバイスでの設定を完了した後にのみ利用できる機能です。詳細な設定方法については、デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。
 - アラーム録画はリアルタイムで表示されます。ソフトウェアクライアントを再起動すると、リアルタイム監視の既存のアラーム録画は消去されます。
-

その他操作：

- ライブビューウィンドウツールバー

ライブビューウィンドウにマウスポインタを置くと、ウィンドウツールバーが表示されます。ツールバーは、現在のウィンドウに対してのみ有効です。詳細については、[ライブビューウィンドウツールバー](#)を参照してください。

- ライブビューショートカットメニュー

ライブビューウィンドウを右クリックすると、ショートカットメニューが表示されます。詳細については、[ライブビューショートカットメニュー](#)を参照してください。

9.2 行動検索

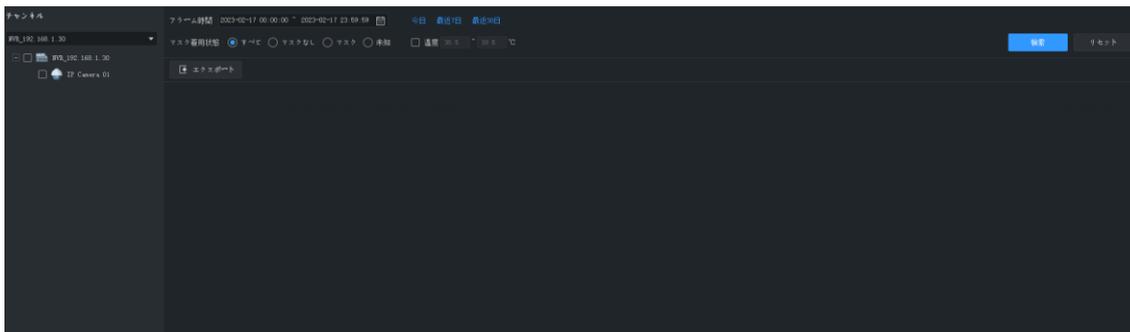
NVR で VCA 画像と録画を検索します。



注意！

この機能は特定の NVR デバイス/バージョンで利用できます。現在、この機能はクロスライン検知、侵入検知、入室エリア、退室エリアの 4 つのアラームタイプに対応しています。

1. 画像で説明されている指示に従ってください。



2. 必要に応じて以下の操作を実行します。
 - スナップショットをクリックすると、右側にアラームビデオ (5) が表示またはダウンロードされます。アラームビデオの継続時間は[システム設定](#)で設定することができます。
 - スナップショットをクリックして、アラーム画像 (6) を表示または保存します。左または右向きの矢印をクリックすると、前または次の画像が表示されます。
 - (7) をクリックするとリストモードに切り換わります。
 - (8) をクリックすると検索結果がエクスポートされます。

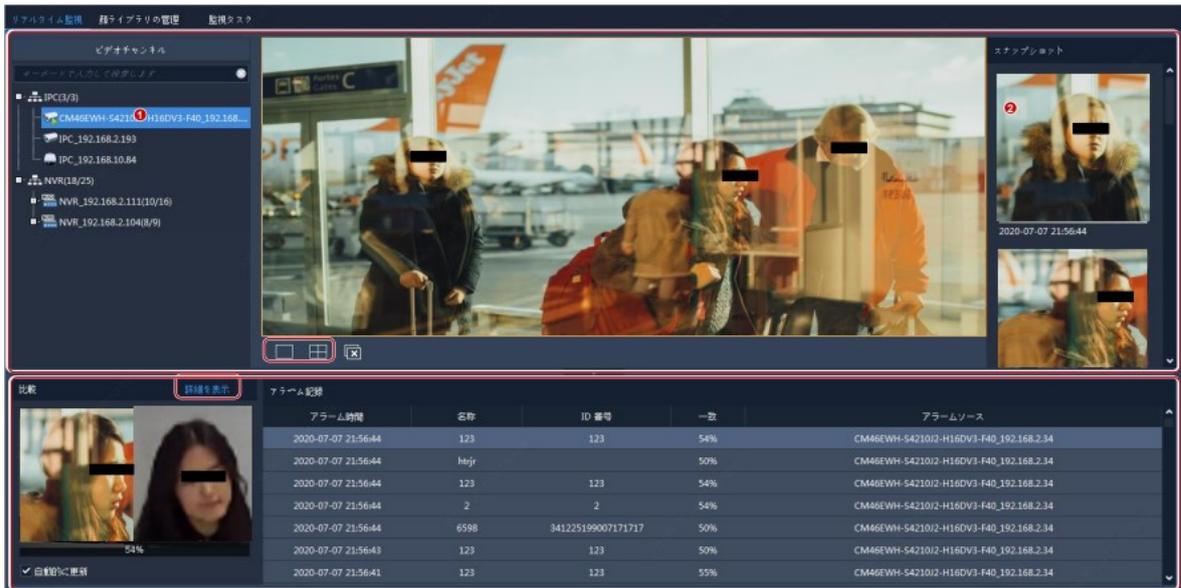
10 顔認識

ライブビデオ、アラーム録画、パススルー録画を表示したり、デバイスの顔ライブラリや監視タスクを管理したりします。顔認識を使用すると、人物を検索することや、出入りする人数を数えることができます。

10.1 リアルタイム監視

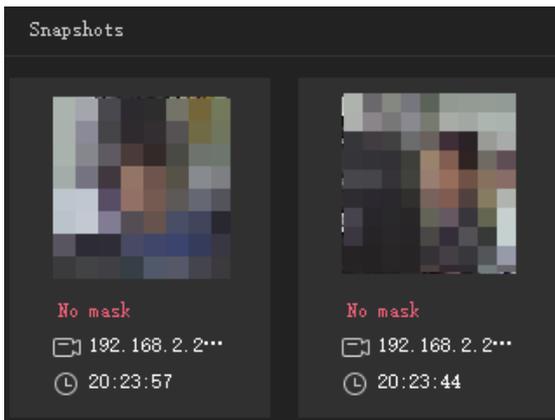
通行人のライブビデオやスナップショットを表示したり、アラーム録画をリアルタイムで表示したりします。

カメラをダブルクリックして、ライブビデオを開始します。カメラは 4 台まで許可されます。

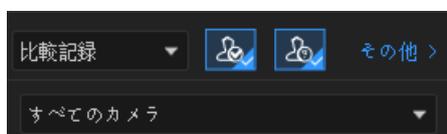


必要に応じて以下の操作を実行します:

- スナップショットをクリックすると、詳細を表示できます。More をクリックすると、Pass-Thru Records タブに移動できます。顔が未登録者として識別された場合は、顔ライブラリに追加できます。カーソルをスナップショットに置き、 をクリックして、必要な情報を入力し、ターゲットライブラリを選択します。



- リアルタイムアラームを表示します。More をクリックして、Alarm Records タブに移動します。
 - 録画タイプの選択:
 - 録画の比較: アイコンをクリックして、比較結果でアラーム録画をフィルタリングします (一致: , 不一致:)。
 - マスク・温度記録: マスクを着用していない人や体温が異常な人の録画を表示します。



- b. 録画をクリックすると、該当する顔比較情報が表示されます。キャプチャーされた顔とライブラリ内の顔の一致度が、設定したアラームのしきい値に達した場合にのみ、人物情報が表示されます。詳しくは [監視タスク](#) をご覧ください。
- 人数計測の統計を表示します。統計は、**Mask&Temperature Record** が選択されている場合にのみ表示されます。

尚、マスクを装着していない人や体温が異常な人の統計を表示するには、**Mask Detection** および **Abnormal Temperature Detection** を予め有効にしておく必要があります。詳しくは [システム設定](#) をご覧ください。統計情報は、毎日午前0時になると自動的に消去されます。**Clear Statistics** をクリックすると、手動で統計情報をリセットできます。



- 伝染病コントロールパラメータを設定できます。ライブビューウィンドウの下にある  をクリックして、伝染病コントロールパラメータを設定します。詳しくは [システム設定](#) をご覧ください。
- 一致する顔と一致しない顔の表示属性を設定できます。ライブビューウィンドウの下にある  をクリックして属性を設定します。詳しくは [システム設定](#) をご覧ください。



注意！

デバイスは、対応する監視タスクが設定されている場合にのみ、アラームをレポートします。

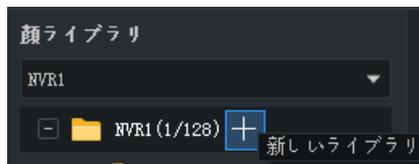
10.2 顔ライブラリの管理

異なる管理ニーズに対応できるように、各種ライブラリの顔を管理します。ライブラリはデバイスに保存されます。

10.2.1 顔ライブラリの作成

管理したいデバイスを選択すると、リストに、そのデバイスの顔ライブラリが表示されます。

 をクリックすると新しい顔ライブラリが作成できます。ライブラリ名を編集したり、不要になったライブラリを削除できます。

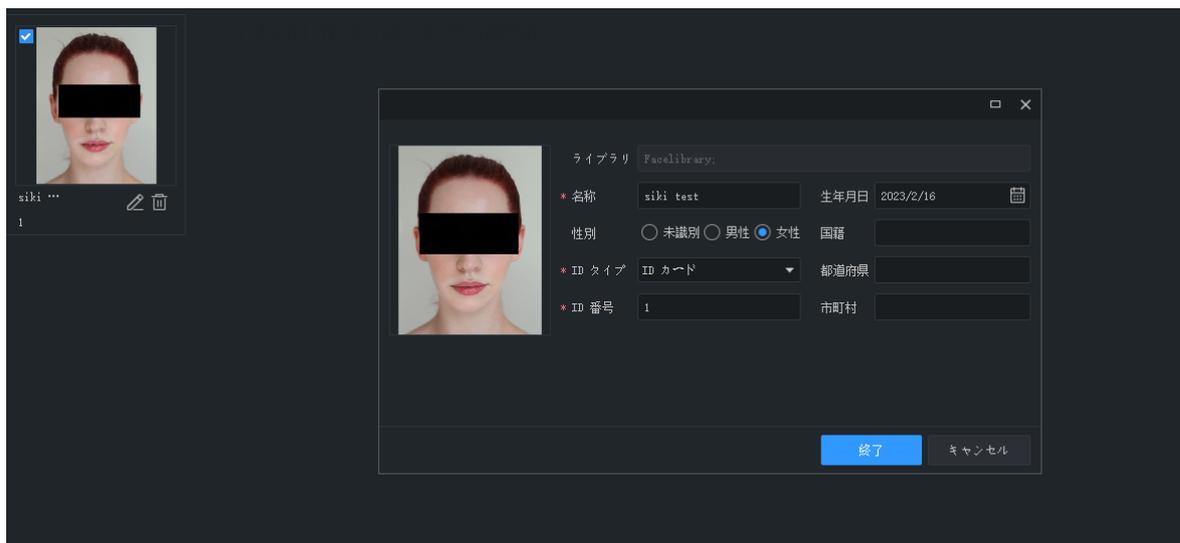


10.2.2 顔データを追加

次のいずれかの方法で、顔ライブラリに顔データを追加します。

オプション1：一括追加の使用

1. **Batch Add** をクリックし、ターゲット顔ライブラリを選択します。別々のデバイスから2種類以上のライブラリを選択できます。
2. **Add** をクリックして、追加する顔画像を選択します。画像は JPG ファイルで、各写真のサイズは 10~500KB の範囲内である必要があります。
3. 編集ボタンをクリックして、必要な情報を入力します。

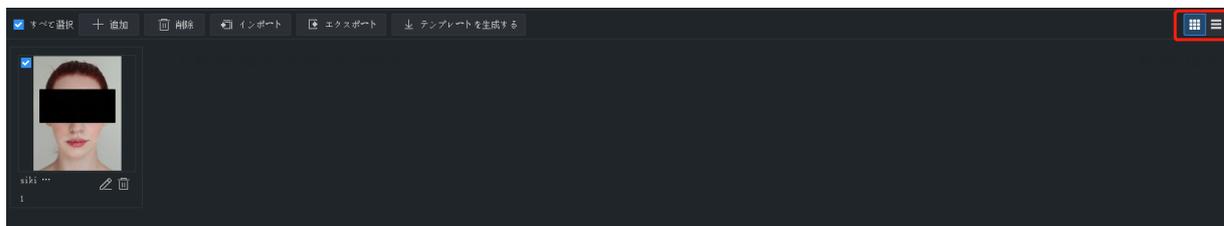


4. **Next** をクリックすると保存されて次の画像に進みます。もしくは **Finish** をクリックします。
5. すべての情報を入力したら、**OK** をクリックします。

オプション2：顔データを含むファイルをインポートする

必要な顔データを含むファイルをインポートします。ファイルとコンテンツは形式に準拠している必要があります、各写真のサイズは 10KB~500KB です。

1. **Download Template** をクリックし、テンプレートファイルに顔データを入力します。
2. **Import** をクリックし、編集済みファイルを選択します。リストに、インポートされたデータが表示されます。リストの右上のボタンをクリックすると、ディスプレイモードが切り換わります。



3. 必要に応じて顔データを編集または削除します。**Export** をクリックすると、CSV ファイルに、現在のライブラリの顔データが保存されます。

10.3 監視タスク

作成した顔ライブラリを使用して、監視タスクを作成します。デバイスは、キャプチャーした顔をライブラリの顔と比較して、設定し従ってアラームを通知します。

1. 左側のカメラを選択し、**Add** をクリックして監視タスクを作成します。
2. タスク名と監視タイプを設定し、監視で使用する顔ライブラリを選択します。ニーズに基づいてアラームしきい値を設定します。
 - 一致アラーム: キャプチャーされた顔と顔ライブラリの顔で類似性（または **Realtime Monitoring** での **Match 度**）がアラームのしきい値に達した場合、デバイスは Match アラームを通知します。
 - 不一致アラーム: キャプチャーされた顔と顔ライブラリの顔で類似性がアラームのしきい値に達しない場合、デバイスは Not Match アラームを通知します。
 - すべて: デバイスがキャプチャした顔をすべて監視するには。



監視タスクの変更

* タスク名: DefaultCtrl

監視タイプ: 一致アラーム

アラームしきい値: 80

備考: DefaultCtrl

Q キーボードで入力して検索します

- NVR-IQ(1/16)
- FaceLibrary(1)



注意！

Not Match アラームの場合、名前や ID 番号などの人物情報は、リアルタイム監視ウィンドウに表示されません。

3. **OK** をクリックします。タスクが作成されると、リストに表示されます。NVR チャンネルの場合、同一 NVR の他のチャンネルに監視タスクをコピーできます。

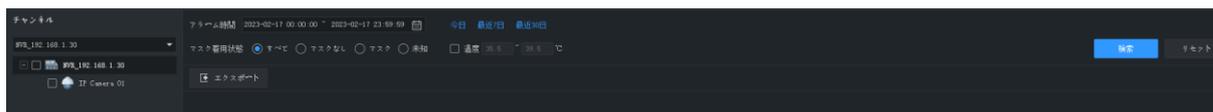


+	追加	削除	コピー				
<input type="checkbox"/>	タスク名	アラームしきい値	備考	顔ライブラリ	監視タイプ	動作	
<input type="checkbox"/>	DefaultCtrl	80	DefaultCtrl	Facelibrary	一致アラーム		

10.4 アラーム録画数

設定された監視タスクによって生成されたアラーム録画を表示します。

ビデオチャンネルを選択し、監視タイプやアラーム時間などの検索条件を設定して、**Search** をクリックします。監視タイプで **Match Alarm** を選択すると、**More** をクリックして、名前、ID 番号、一致度、マスク着用状況、体温範囲などの条件をさらに設定できます。



注意！

顔検知または顔認識をサポートする NVR チャンネルのみ選択できます。

必要に応じて以下の操作を実行します：

- 未登録者の顔のスナップショットを顔ライブラリに追加

マウスのカーソルを顔のスナップショットに置いて、 をクリックします。名前や ID 番号など必要な情報を入力し、ターゲットライブラリを指定する必要があります。

- 詳細表示

録画をクリックして、アラームの詳細を表示します。

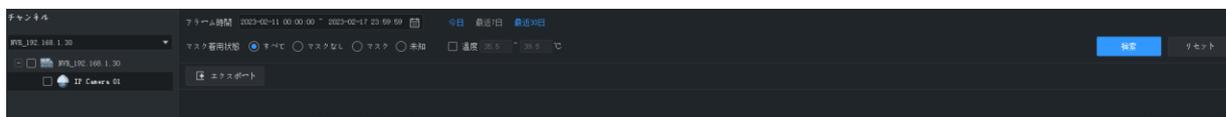
- 録画のエクスポート

Export をクリックして、検索結果をエクスポートします。

10.5 パススルー録画

パススルー録画、人数計測の統計、マスク着用状態、体温を表示します。

ビデオチャンネルを選択し、アラーム時間、マスク着用状態、体温範囲などの検索条件を設定して、**Search** をクリックします。



注意！

顔検知または顔認識をサポートする NVR チャンネルのみ選択できます。

必要に応じて以下の操作を実行します:

- 未登録者の顔のスナップショットを顔ライブラリに追加

マウスのカーソルを顔のスナップショットに置いて、 をクリックします。名前や ID 番号など必要な情報を入力し、ターゲットライブラリを指定する必要があります。

- 詳細表示

録画をクリックして、アラームの詳細を表示します。

- 録画のエクスポート

Export をクリックして、検索結果をエクスポートします。

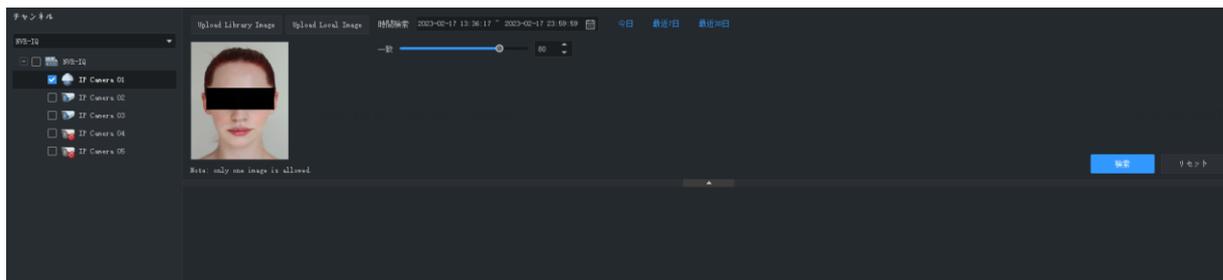
- 画像で検索

顔スナップショットにマウスポインタを合わせて、 をクリックすると、画像検索ページに入ります。

10.6 画像で検索

これは、パススルー録画から画像による人物検索をサポートする機能です。

チャンネルを選択し、ローカル画像をアップロードするか、ライブラリから画像を選択し、時間範囲とマッチング度を設定します。システムは、パススルー録画から顔画像を比較し、設定されたマッチングしきい値を超える画像を検索します。また、アラーム画像の前後のアラームビデオを生成することもできます。アラームビデオの長さ（アラーム時刻の前後の時間）は、[システム設定](#) で設定することができます。



検索結果の顔画像をクリックすると、顔を含んだアラーム画像が表示されます。アラームビデオがある場合は、アラームビデオも表示されます。

必要に応じて以下の操作を実行します:

- アラーム画像の下にある左右の矢印をクリックすると、前後の画像が表示されます。
- 顔ライブラリの追加

検索結果の顔画像にマウスポインタを合わせて  をクリックし、名前、ID 番号などを入力します。**Next** をクリックすると、該当する顔ライブラリに顔が追加されます。

- 画像で検索

顔画像にマウスポインタを合わせ、 をクリックすると、スナップショットに基づいて再度検索することができます。

11 人数カウント



注意！

この機能を実行するには、人数カウントが可能なカメラと NVR が NVR を介してパソコンに接続されている必要があります。

この機能は、人流カウントと群集密度監視を目的としています。

- リアルタイム統計：選択したエリアの集計結果をリアルタイムに表示・更新します。
- レポート統計：棒グラフまたは折れ線グラフでカウント結果が表示され、エクスポートされます。この機能は、人流カウントでのみ利用することができます。

11.1 リアルタイム統計

コントロールパネルで **People Counting** をクリックします。Realtime Statistics タブでカメラをダブルクリックし、ライブビデオが開始します。

統計の内容：

- 人流カウント：複数のチャンネルを選択して、カウントエリアを形成することができます。カウント結果には、指定した検知エリアへの人の出入り、滞在数が含まれます。事前に NVR で人流カウントを有効にし、検知エリアを設定する必要があります。
- 群衆密度監視：現在のエリア内の人数をカウントし、各チャンネルを個別にカウントします。事前に NVR で群集密度監視を有効にし、検知エリアを設定する必要があります。



左側のツリーで、人流カウントフォルダまたは群集密度監視フォルダの横にマウスポインタをおきます。



をクリックして、検知エリアの追加、チャンネル選択、アラームしきい値の設定を行います。

マウスカーソルをカウントエリアに合わせます：

-  をクリックすると、人流カウント/群集密度監視が開始され、右側に結果が表示されます。
-  をクリックして、エリア名、アラームしきい値、チャンネルを変更します。
-  をクリックして、エリアを削除します。



注意！

People Counting ページを閉じるか、システムからログアウトすると、ライブビューとリアルタイム統計が自動的に停止します。

11.2 レポート統計

Report Statistics タブでカウントエリアを選択してから    をクリックすると、直接カウントされます。または、最初に次の条件を設定します。

- カウントのタイプ：1分ごと、1時間ごと、1日ごとまたは1か月ごと。
- カレンダーで選択するか、所定欄に記入して期間を設定します。
- チェックボックスを選択して、進入/退出/滞在する人数をカウントします。



-   をクリックすると、折れ線グラフまたは棒グラフに結果が表示されます。

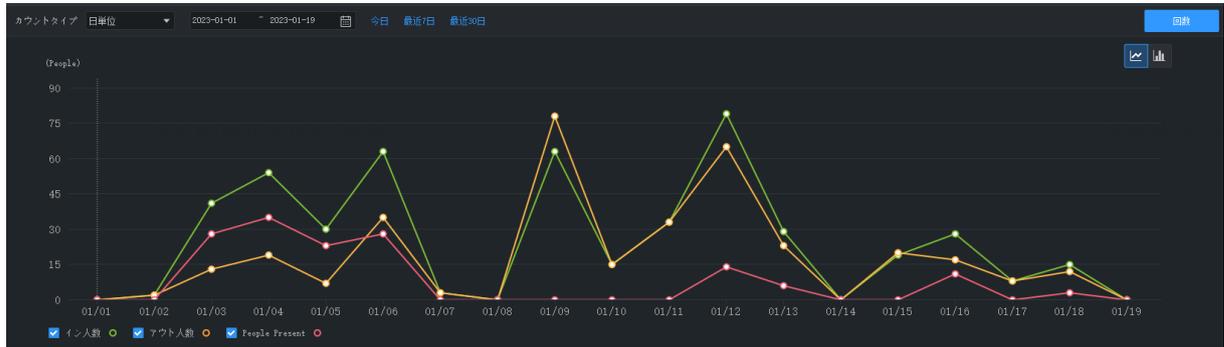


注意！

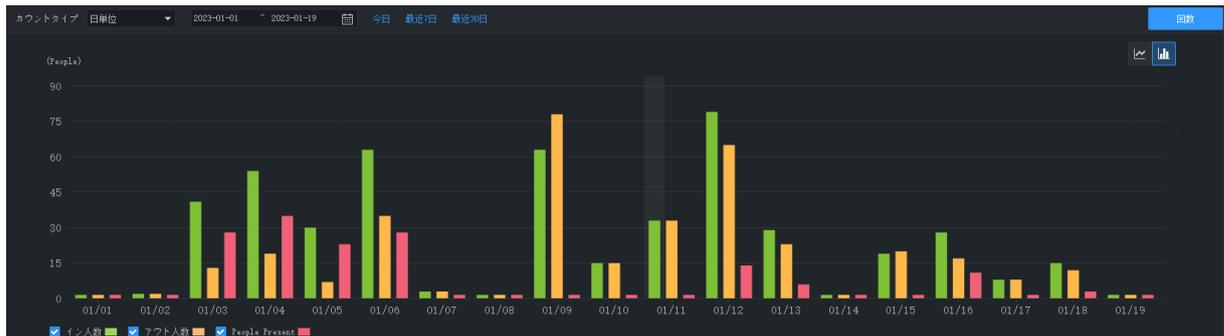
- 最長期間は選択した単位（分、時間、日、月）x60 です。たとえば、月を選択した場合は最長期間が 60 か月で、日を選択した場合は最長期間が 60 日です。
- この機能は、人流カウントでのみ利用することができます。

Count をクリックすると結果が表示されます。

- 線や列にカーソルを置くと、その時点での数字が表示されます。
- 列のタイトル（People Entered または People Left）をクリックすると、昇順または降順に結果を並べ替えることができます。



 をクリックすると棒グラフに表示されます。



Export をクリックすると、パソコンに CSV ファイルとして統計がエクスポートされます。Microsoft Office Excel でファイルを開くことができます。

12 アクセスコントロール

アクセスコントロールライブラリを管理したり、リアルタイム監視を行ったり、入口/出口の録画を検索およびエクスポートしたりします。

12.1 ライブラリの管理

12.1.1 ライブラリの追加

アクセスコントロールデバイスのライブラリを追加し、ライブラリでアクセスを制御します。

1. 左側のドロップダウンリストからターゲットアクセスコントロールデバイスを選択します。
2. デバイス名の後の  をクリックします。デバイスの下に新しいライブラリが表示されます。
3. 新しいライブラリの後の  をクリックして、デバイス名を入力します。
4. **OK** をクリックします。



注意！

人物データの追加時に IC カード情報を自動的に読み取るには、テキストボックスにマウスを移動し、カードリーダーで IC カードをスワイプします。

12.1.2 人物データの追加

人物データをライブラリに追加します。データは、1 人ずつ人物を追加したり、Batch Add 機能で複数の人物を追加したり、複数の人物データを含むファイルをインポートして一括で追加したりすることができます。

オプション 1：1 人の人物のデータを追加

1. **Add > Add One Person** の順にクリックします。
2. 必要な情報を入力します。左側の画像をクリックして、写真をアップロードします。
3. **Next Step** をクリックして、ターゲットライブラリを選択します。
4. **OK** をクリックします。

オプション 2：一括追加の使用

1. **Add > Batch Add** の順にクリックして、ターゲットライブラリを選択します。
2. **OK** をクリックします。



3. **Add** をクリックして、追加する顔画像を選択します。

4.  をクリックして、名前や ID など必要な情報を入力します。
5. **Next** をクリックすると保存されて次の画像に進みます。もしくは **Finish** をクリックします。
6. すべての情報を入力したら、**OK** をクリックします。

オプション 3：複数の人物データを含むファイルをインポートして、複数人物を一括で追加

1. **Generate Template** をクリックし、テンプレートを使用して、必要な人物データを含むファイルを作成します。
2. **Import** をクリックして、必要な顔ライブラリを選択してください。
3.  をクリックして、インポートするファイル（CSV または XLSX）を選択します。
4. **Import** をクリックしてください。



注意！

- 画像は JPG のみの対応です。各画像のサイズは、10～500KB の範囲内である必要があります。
- Mac OS では、XLSX ファイルのインポートまたはエクスポートができません。

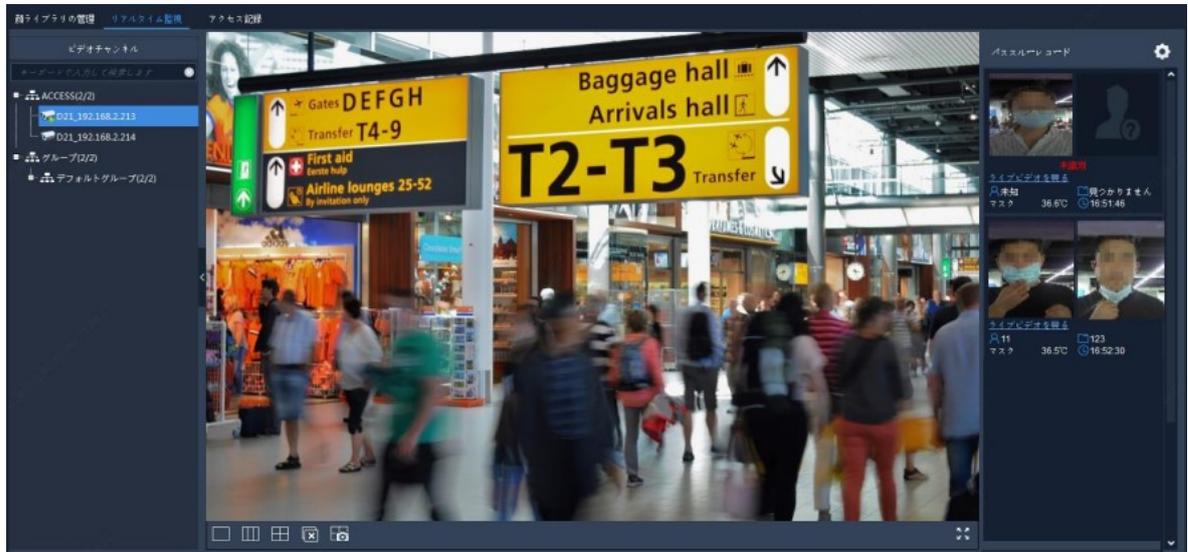
次の操作が許可されます：

- リストの右上の  をクリックすると表示モードを切り替わります。
- **Export** をクリックして、ライブラリのデータを CSV ファイルまたは XLSX ファイルに保存します。

12.2 リアルタイム監視

通行人のライブビデオやスナップショットの表示、スナップショットの撮影、デジタルズームの使用、さらにドアをリモートで開けることができます。

カメラをダブルクリックするか、カメラをウィンドウにドラッグしてライブビデオを開始します。パススルー録画は右側に表示されます。



キャプチャーされた顔のスナップショットと該当するライブラリの写真（一致が確認された場合）が、右側に表示されます。録画をクリックすると、元のスナップショット、マスク着用状況、体温などの詳細が表示されます。



顔のスナップショットがライブラリと一致しない場合は、ライブラリの写真は表示されず、その人物は未登録者として識別されます。未登録者をライブラリに追加するには、マウスのカーソルを顔のスナップショットに置いて、 をクリックします。ユーザー名と ID を入力し、ターゲットライブラリを指定する必要があります。



注意！

- マスク検知および体温検出は、デバイスでサポートおよび設定されていないと利用できません。詳細については、アクセスコントロールデバイスのユーザーマニュアルをご覧ください。
- アクセスコントロールデバイスが元のスナップショットをアップロードできる状態になると、**Show Original Snapshot** ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、元のスナップショットを表示できます。
- パススルー録画は最大 10 件まで表示できます。パススルー録画の生成件数が 10 件を超えると、一番古い録画が新しい録画に上書きされます。
- パススルー録画はリアルタイムで表示されます。ソフトウェアを再起動すると、リアルタイム監視のパススルー録画は消去されます。
- パススルー録画を表示する前に、ライブラリを 1 個でも設定しておくことをお勧めします。

次の操作が許可されます:

- ライブビューウィンドウツールバー

ウィンドウツールバーは、マウスのカーソルがライブビューウィンドウ上にあるときに表示されます。ツールバーは、現在のウィンドウに対してのみ有効です。詳細については、[ライブビューウィンドウツールバー](#)を参照してください。ツールバーのは、ドアを開ける際に使用します。

- ライブビューツールバー

詳細については、[ライブビューツールバー](#)を参照してください。

- システム設定

右上のをクリックして、アラーム音やポップアップアラームウィンドウなどを設定します。詳細については、[システム設定](#)をご覧ください。

12.3 入口/出口の録画

時間、マスク装着状態、体温範囲、認証結果などで入口/出口の録画を検索します。**Authentication Result** を **Succeeded** に設定すると、名前や IC カード番号で検索結果をさらにフィルタリングできます。



時間	名称	個人 ID	ID タイプ	ID 番号	状態	温度(°C)	デバイス名称	スナップショット	ライブラリの写真	動作
2020-07-07 12:45:03	未知	未知	未知	未知	マスクなし	36.3	D21_192.168.2.213			+ 
2020-07-07 12:45:10	3333333	333333322	ID カード	21	マスクなし	36.2	D21_192.168.2.213			

次の操作が許可されます:

- 未登録者をライブラリにすばやく追加

未登録者が検知されると、ライブラリの写真は空になります。未登録者をライブラリに追加するには、Operation 列の  をクリックして、名前や人物 ID など必要な情報を入力し、Next Step をクリックして、ターゲットライブラリを選択します。

- 詳細表示

詳細な人物情報を表示するには、Operation 列の  をクリックします。

- 検索結果のエクスポート

Export をクリックして、検索結果を CSV ファイルまたは XLSX ファイルに保存します。テキストのみのエクスポート、またはテキストと画像の両方のエクスポートのいずれかを選択できます。

13 E マップ

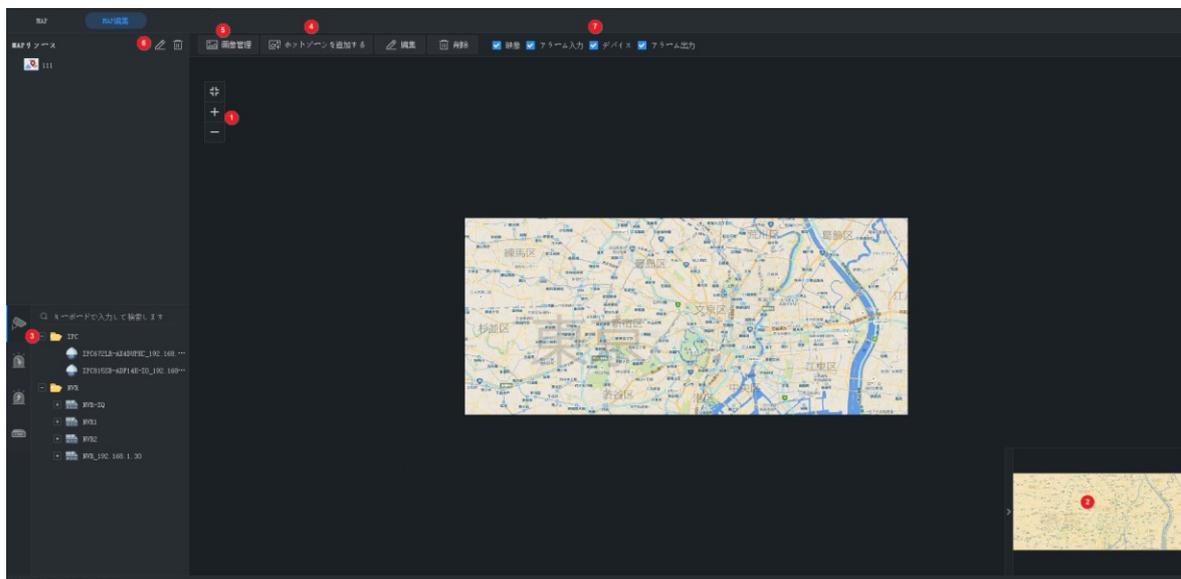
まず Edit Map タブで設定を完了し、次に Map タブでマップを使用します。

- ホットスポット: ビデオチャンネル、アラーム入力/出力チャンネル、マップに追加されたデバイス。ライブビューと再生はビデオチャンネルのみで利用できます。
- ホットゾーン: マップ内のマップです。ホットゾーンにホットスポットを追加できます。

13.1 マップの設定

13.1.1 マップの追加

コントロールパネルで E-map をクリックし、 をクリックします。PNG、BMP、JPEG の各画像のみが許可されます。追加されたマップは、左のページと Map Resources リストに表示されます。

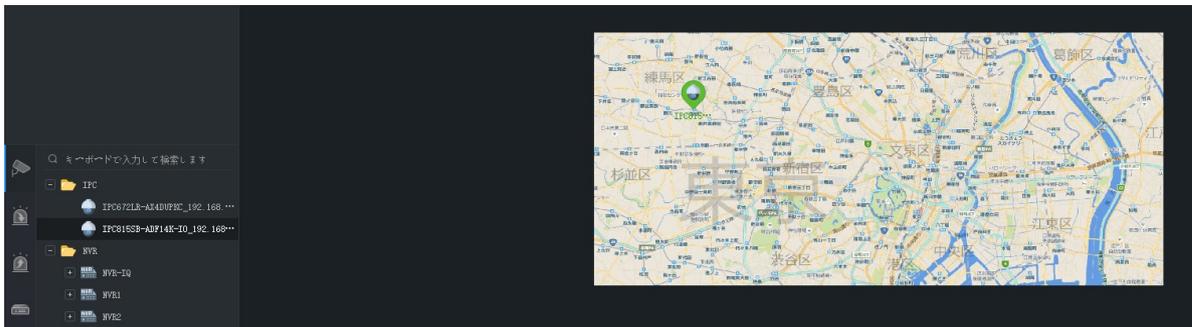


Edit Map タブでは、以下のことができます：

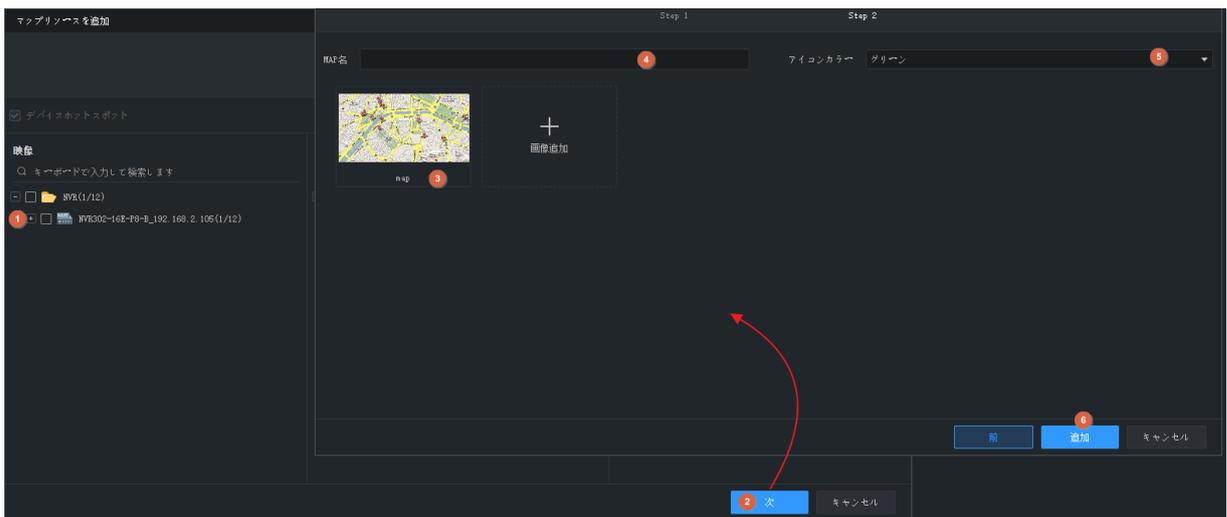
- マップのスケールの変更：スクロールホイールを使用するかズームボタン（1）をクリックして、マップを縮小または拡大します。
- イーグルアイ：マップの黄色の範囲（2）でドラッグすると、マップに細部が表示されます（もしくはマップを直接ドラッグします）。
- ホットスポット（3）の追加：デバイス、ビデオチャンネル、アラーム入力/出力チャンネルをマップ上の目的の位置にドラッグします。詳しくは、[ホットスポットの追加](#)を参照してください。
- ホットゾーン（4）の追加：マップ上にマップを追加します。7層までマップが追加できます。詳しくは、[ホットゾーンの追加](#)を参照してください。
- 画像の管理（5）：マップを追加または削除します。マップを削除すると、その中のホットスポットとホットゾーンもすべて削除されます。
- マップリソースの編集（6）：マップ名を編集して、ホットゾーンのアイコンの色を変更します。
- マップリソースのフィルタリング（7）：表示するビデオチャンネル、アラーム入力/出力チャンネル、またはマップ上のデバイスを選択します。

13.1.2 ホットスポットの追加

ホットスポットを追加しておくことで、イベントが発生したときにすばやく見つけることができます。ホットスポットには、ビデオチャンネル、アラーム入力/出力チャンネル、デバイスが含まれます。ホットスポットを右クリックすると、色を変更したり、マップからホットスポットを削除できます。

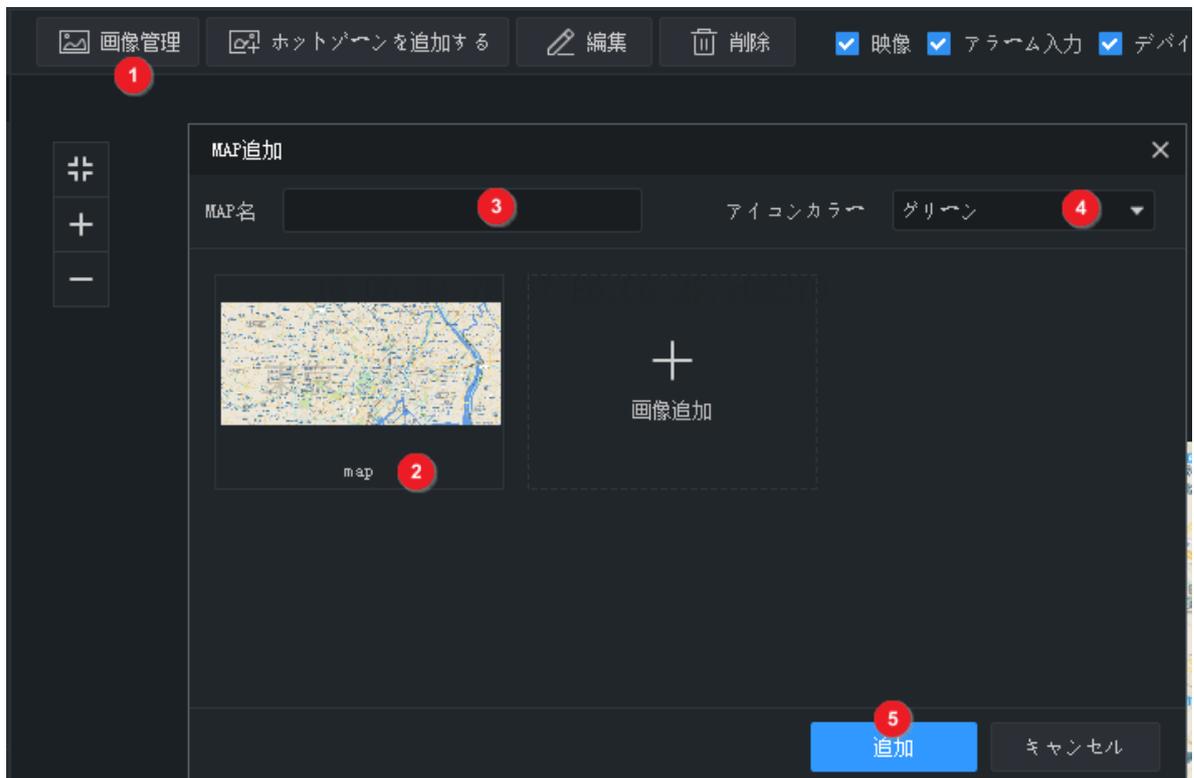


デバイスのホットスポットを追加する際に、ビデオチャンネルとアラーム入力/出力チャンネルを追加することもできます。チャンネルとデバイスは、マップのホットゾーンと一緒に表示されます。ホットゾーンのマップは選択しておく必要があります。手順は以下のとおりです：



13.1.3 ホットゾーンの追加

手順に従ってホットゾーンを追加します。



ホットゾーンはマップ上でアイコン表示され、ダブルクリックすると開きます。ホットゾーンを右クリックすると、色を変更したり、マップからホットゾーンを削除できます。

13.2 マップの操作

設定を完了したら、**Map** タブをクリックするとマップが使用できます。ホットスポット、ホットゾーン、アラーム、トリガー/クリアアラームを表示できます。

13.2.1 マップ上でホットスポットやホットゾーンを見つける

Locate ボタンをクリックするとマップ上でホットスポットやホットゾーンを見つけることができます。

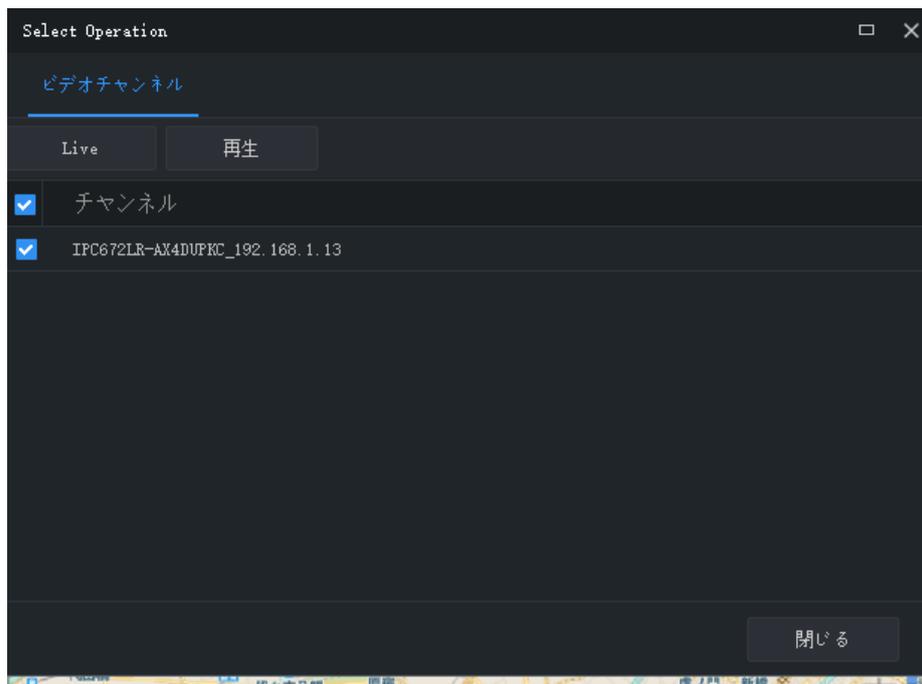


13.2.2 ホットスポットの操作

上部のツールバーにある **Select** ボタンをクリックし、マップにドラッグしてホットスポットを選択します。ホットスポットのタイプによって操作が異なります。

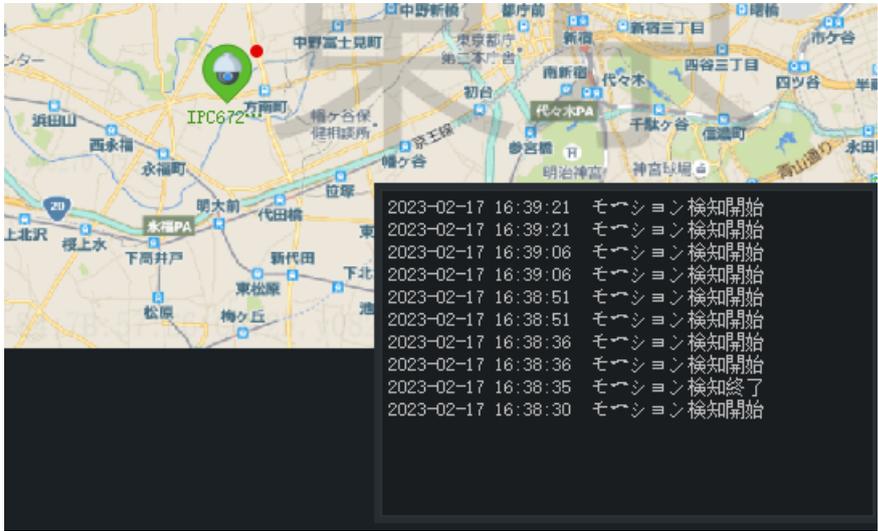
- ビデオチャンネル：ビデオチャンネルを選択して、ライブまたは録画したビデオを表示します。ライブビュー中でもウィンドウツールバーは使用できます。
- アラーム入力：チャンネルを選択してアラームを消去します。
- アラーム出力：アラームをトリガー/消去します。**Operation** 列のボタンまたは上部のボタンを使用すると、アラームをトリガーまたは消去することができます。

ホットスポットを右クリックしても、上記の操作が可能です。アラーム入力チャンネルおよびビデオチャンネルでは、アラーム情報も表示できます。



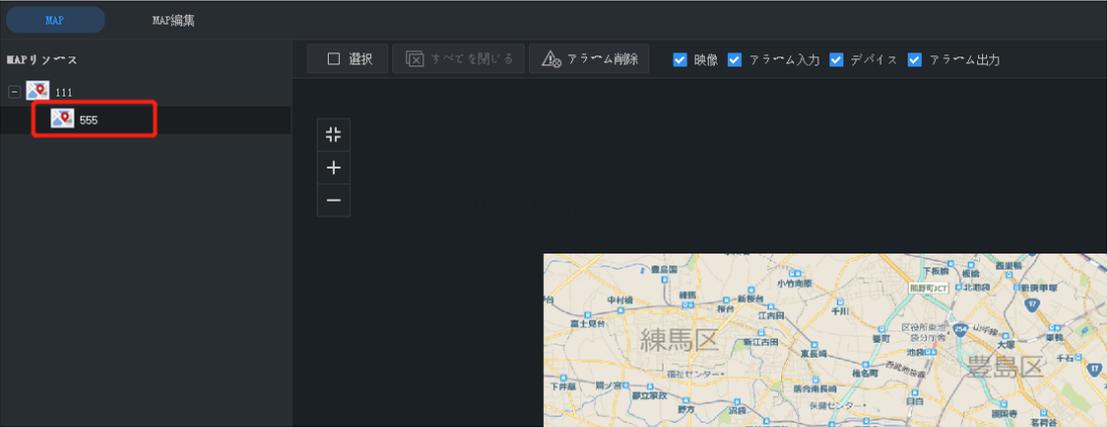
13.2.3 アラームの処理

アラームが発生すると、マップ上で、それに対応するホットスポットが点滅します。ホットゾーン内にホットスポットがある場合、そのホットゾーンが赤で点滅します。ホットスポットを右クリックするとライブビデオや録画済みビデオを再生したり、アラーム情報を表示したり、アラームをクリアできます。



13.2.4 ホットゾーンの表示

ホットゾーンを表示するには、左の **Map Resources** リストでホットゾーンマップをクリックするか、マップのホットゾーンアイコンをダブルクリックします。



Map Resources リストでメインマップをクリックすると、元に戻ります。

14 音声

音声サービスには、音声、双方向音声、ブロードキャストなどがあります。双方向音声は、音声またはブロードキャストと同時に動作しません。すなわち、双方向音声を起動すると音声またはブロードキャストが停止し、音声またはブロードキャストを起動すると双方向音声は停止します。

注意： Mac OS では、ブロードキャストは利用できません。

14.1 音声

ライブビデオの再生中にウィンドウツールバーで  をクリックすると、カメラの音声が始動します。この音声はカメラからパソコンへの一方向音声で、ライブビデオを閉じるとこの音声も停止します。

注意：別のカメラで音声を起動すると、現在のカメラの音声も停止します。

14.2 双方向オーディオ

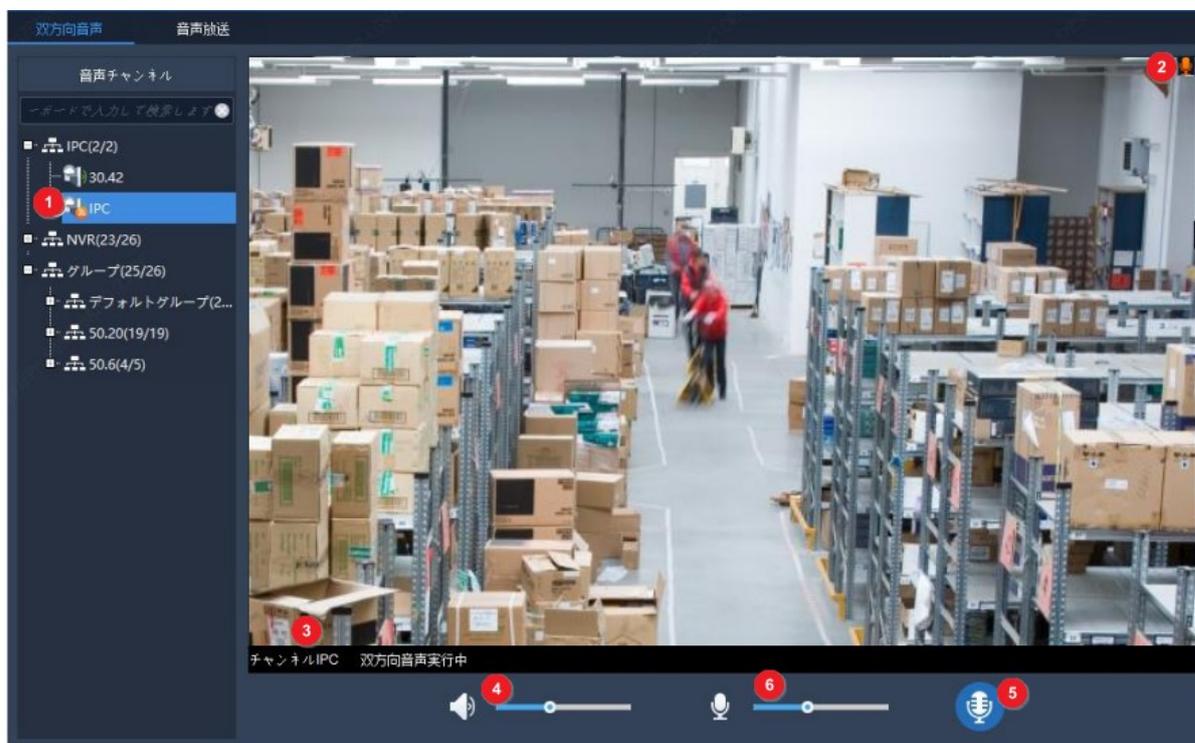
双方向音声はデバイス（カメラや NVR）とパソコンとの間の音声通信です。デバイスとパソコンの両方が、音声入出力デバイスに接続されている必要があります。

注意：双方向音声は一度に 1 台のデバイスのみで使用できます。

14.2.1 カメラとの双方向音声

カメラをダブルクリックするか、右のウィンドウにカメラをドラッグします。双方向音声が始動すると、音声チャンネル記号が変化し (1)、ウィンドウの右上で双方向音声記号が点滅し (2)、双方向音声が使用中であることを示すヒントが表示されます (3)。

双方向音声の使用中に音量を調整したり (4) (6)、双方向音声を停止したりできます (5)。



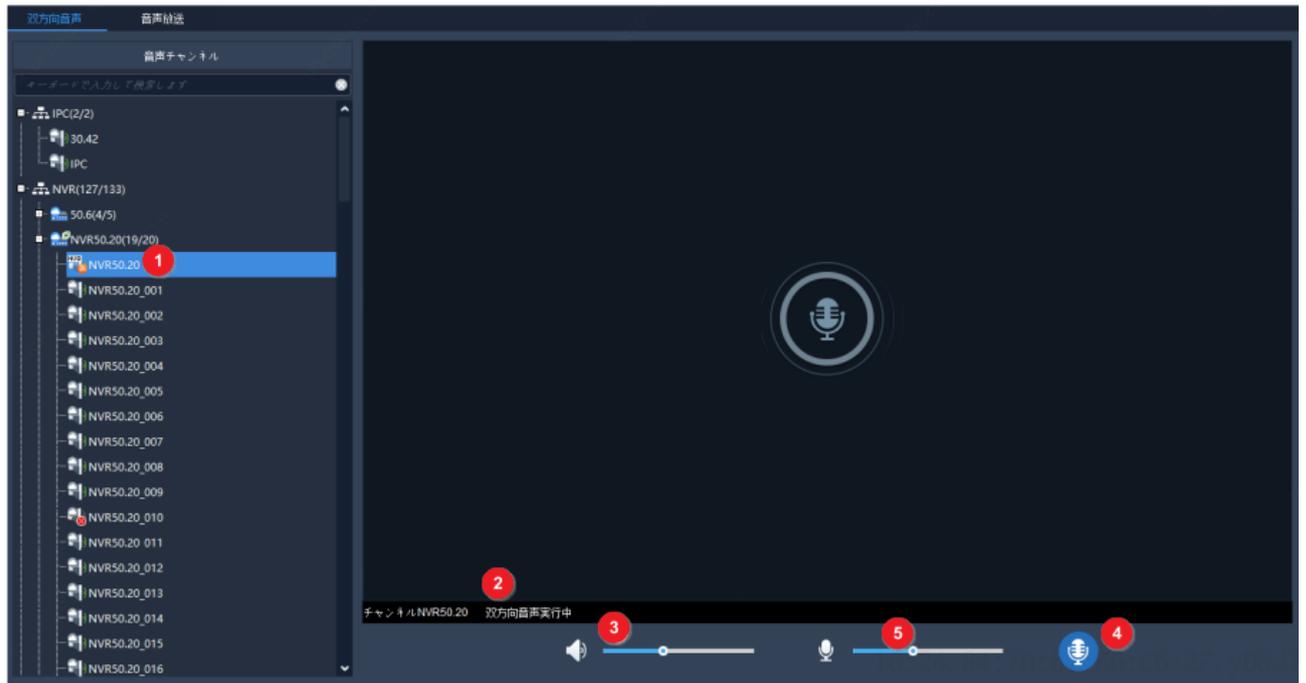
注意！

また、ライブビューウィンドウで  をクリックすると、カメラとの双方向音声を開始できます。

14.2.2 NVR との双方向音声

Two-way Audio タブで NVR をダブルクリックするか、右のウィンドウに NVR をドラッグします。双方向音声が始まると、音声チャンネル記号が変わり (1)、ヒント表示 (2) により、双方向音声を使用中であることがわかるようになります。

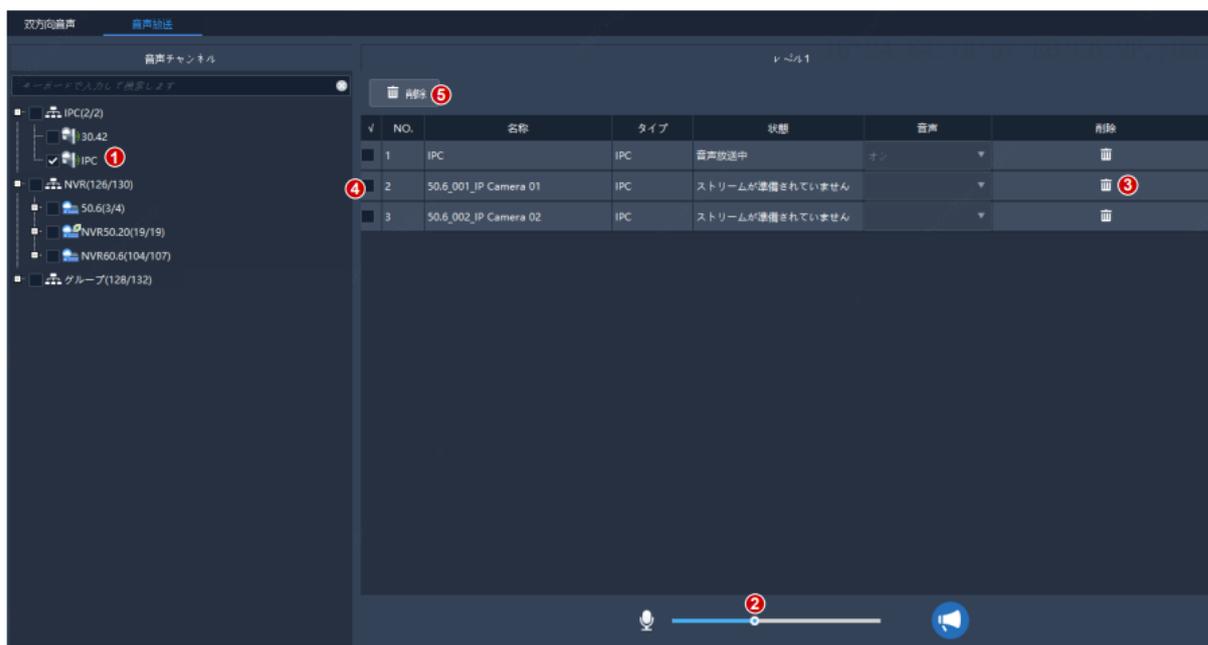
双方向音声の使用中に音量を調整したり (3) (5)、双方向音声を停止できます (4)。



14.3 ブロードキャスト

ブロードキャストはパソコンからカメラへの一方向音声です。

1. **Broadcast** タブをクリックします。左側のリストから音声チャンネルを選択します。以下の操作が可能です。
 - 音声チャンネルを1個ずつ選択します。
 - NVR または組織を選択して、その下の音声チャンネルをすべて選択します。
2. **Add** をクリックします。選択した音声チャンネルは、右側のブロードキャストリストに表示されます。
3. チャンネルがすべて追加され、 をクリックをクリックする、ブロードキャストが起動します。



ブロードキャストの開始後、以下のことが可能です。

- 音声チャンネルの追加：左側のリスト (1) で音声チャンネルを選択し、**Add** をクリックします。これらのチャンネルでブロードキャストが自動的に開始されます。
- 音声の音量 (2) を調整します。もしくは  をクリックするとマイクがオフになります。
- ブロードキャストリストから音声チャンネルを削除： (3) をクリックして 1 ずつチャンネルを削除するか、チェックボックス (4) を選択し、 (5) をクリックして一括削除します。
- ブロードキャストを中止する： をクリックするか、**Audio** ページを閉じます。



注意！

現在、NVR ではブロードキャストは利用できません。

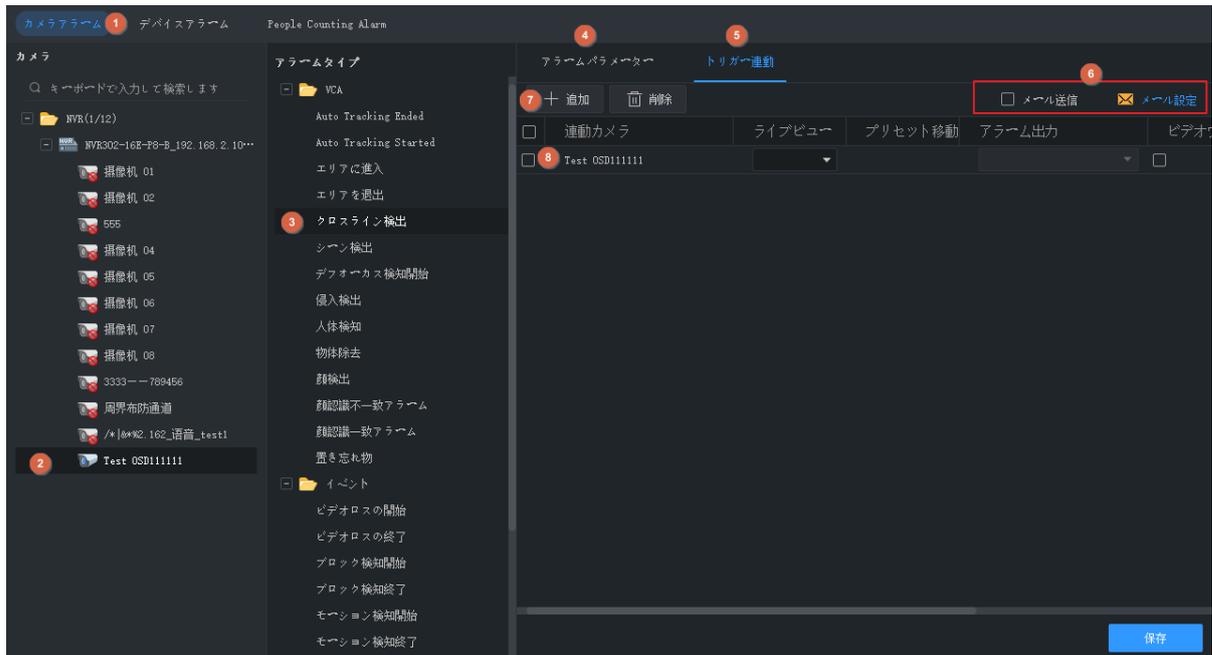
15 アラームの設定

特定のソースで特定の形式のアラームが発生したときに起動するアクション（アラーム録画を表示する、アラームを処理する）を設定します。

15.1 アラーム起動型アクションの設定

アラームの設定には、アラームソース、アラームタイプ、リンク先デバイス、起動元アクションなどの設定があります。

1. コントロールパネルで **Alarm Configuration** をクリックし、手順に従います。



- 設定したいアラームタイプに対応するタブをクリックします。ここでは **Camera Alarm** を例に取り上げます。
 - カメラアラーム：カメラオンライン/オフライン、イベントアラーム、VCA アラーム。
 - デバイスアラーム：デバイスおよびディスクのオンライン/オフライン、高温化/低温化などが含まれます。DX デバイスの場合、次のアラームタイプが使用できます：ファン不具合、LED ディストリビューションボックスの高温化、LED ディストリビューションボックスの煙探知、ファン不具合解消、LED ディストリビューションボックスの高温化解消、LED ディストリビューションボックス煙探知解消、高温化/低温化の解消。
 - 人数カウントアラーム：群集密度マイナー/メジャー/重要アラーム、群集密度マイナー/メジャー重要アラームクリアが含まれます。
- アラームソースを選択します。以降の設定はすべて、このアラームソースに関する設定になります。
- アラームタイプを選択します。指定された形式のアラームによって、設定されたアクションが起動します。顔認識一致・不一致アラームを選択した場合、監視タスクが設定されていることを確認してください（[監視タスク](#) を参照のこと）。
- アラームパラメータの設定。



注意！

- カメラアラームとデバイスアラームのみ設定することができます。
- 次のアラームタイプの場合、まず、設定をクリックして、デバイスのウェブインターフェースにアクセスし、設定を完了する必要があります: 動体検知、改ざん検知、アラーム入力、音声検知、入室エリア、退出エリア、侵入検知、クロスライン検知、顔検知、デフォーカス検知、物体放置、物体除去、人体検知。

動体検知を例にとると、動体検知が有効になっていて、検知エリアが指定され、監視スケジュールが設定されていることを確認する必要があります。

6. **Trigger Actions** タブをクリックします。
7. アラーム発生時にメールでアラートを受信するには、チェックボックスを選択し、メール設定を完了します ([システム設定](#) を参照のこと)。
8. **Add** をクリックします。ダイアログボックスが現われます。リンクしたいデバイスを選択し、**OK** をクリックします。リンクされたデバイスがリストに表示されます。指定のアラームソース (ステップ 1) で指定のタイプのアラーム (ステップ 2) が発生すると、デバイスが起動して指定のアクションが実行されます。
9. 起動させたいアクションを設定します。
 - アラーム起動型ライブビュー: アラームによってポップアップウィンドウが起動し、カメラからのライブビューが再生されます。
 - アラーム起動型プリセット: アラームが発生すると、プリセットに従って PTZ カメラが回転します。予めリストでプリセットを設定しておく必要があります。
 - アラーム起動型出力: アラームが発生すると、カメラがアラームを出力し、それによってサードパーティデバイスによるアクションが起動します。
 - アラーム起動型ビデオウォール: アラームによってビデオウォールが起動し、カメラからのライブビューが再生されます。まずビデオウォールの設定を完了する必要があります。1 台のカメラのみを選択できます。
10. **Save** をクリックします。



注意！

- アラーム起動型ライブビューを有効にするには、GUI 左下の  をクリックし、**Display Link Video** を選択します。
- 2 台以上のカメラからライブビデオを起動すると、パソコンの CPU 使用量が増えて他のサービスに影響が出ることがあります。

15.2 アラーム録画の表示

コントロールパネルで **Alarm Records** をクリックすると、アラーム録画を表示したり、アラームを確認したり、パソコンにアラームデータをエクスポートできます。

15.2.1 直近のアラーム

Latest Alarm タブには、現在のログイン後に発生したアラームが列記され、自動的に更新されます。

アラーム時間	アラームソース	アラームタイプ	アラームレベル	プレビュー
2023-02-17 16:33:53	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍
2023-02-17 16:33:42	IP Camera 01	ビデオロスの終了	レベル6	🔍
2023-02-17 16:32:40	IP Camera 01	ビデオロスの開始	レベル6	🔍
2023-02-17 16:32:32	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍
2023-02-17 16:32:32	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍
2023-02-17 16:32:17	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍
2023-02-17 16:32:17	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍
2023-02-17 16:32:02	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍
2023-02-17 16:32:02	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍
2023-02-17 16:31:57	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	デバイスオンライン	レベル4	🔍
2023-02-17 16:31:48	IP Camera 01	デバイスオンライン	レベル4	🔍
2023-02-17 16:31:47	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍
2023-02-17 16:31:47	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍
2023-02-17 16:31:32	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍
2023-02-17 16:31:32	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍
2023-02-17 16:31:28	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知終了	レベル6	🔍
2023-02-17 16:31:28	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知終了	レベル6	🔍
2023-02-17 16:31:23	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍
2023-02-17 16:31:23	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍
2023-02-17 16:31:21	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	デバイスオフライン	レベル3	🔍
2023-02-17 16:31:08	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍

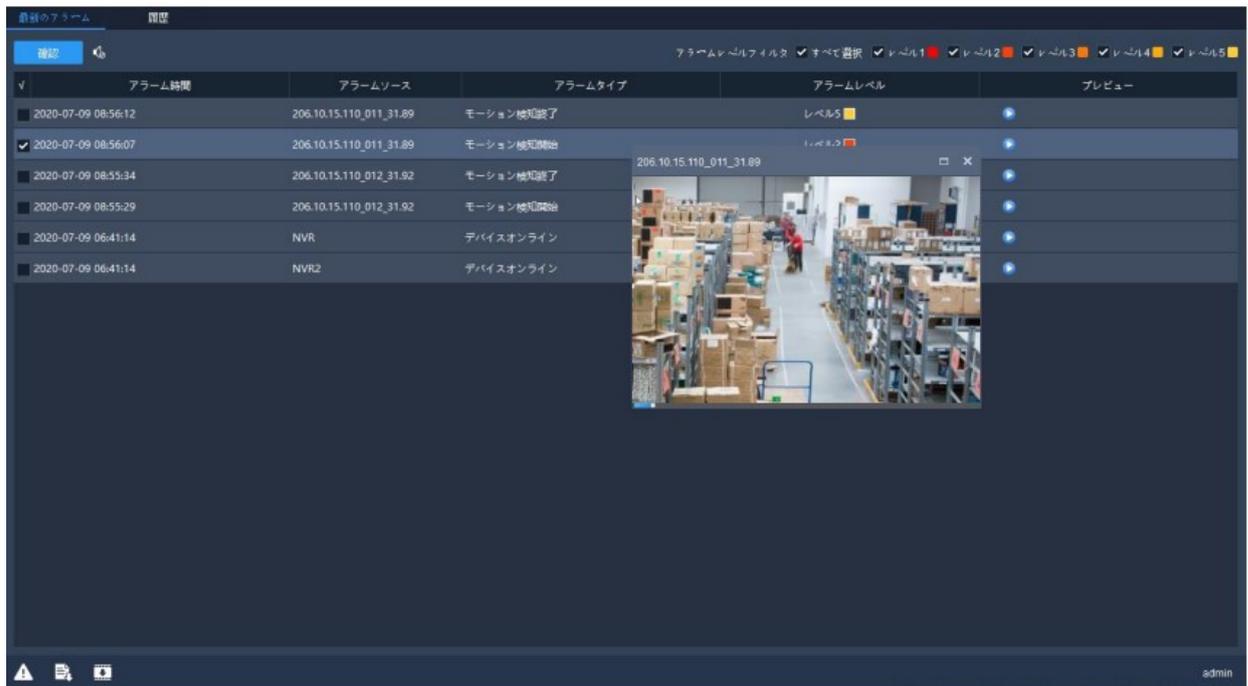
ヒント：

以下の操作が可能です。

- ヘッダー（Alarm Time など）をクリックすると、録画を昇順/降順で並べ替えることができます。
- アラームの確認：アラームを選択（ダブルクリック）し、**Acknowledge** をクリックします。確認済みのアラームは **History** タブに移動します。
-  をクリックするたびにアラームの音がオン/オフします。
-  をクリックするとアラームビデオが再生されます。アラームビデオの長さは、システム設定(Operation > Alarm > Stop Playback After and Start Playback Before)で設定できます。
- GUI の左下にある Latest Alarm ボタン () をクリックします。表示されたページで、アラーム音のオン/オフや、アラーム起動型ライブビデオを有効/無効にする **Display Link Video** の選択/選択解除ができ、録画をダブルクリックすると **Realtime Alarm** タブ全体が表示されます。

アラーム時間	アラームソース	アラームタイプ	アラームレベル	プレビュー
2023-02-17 16:46:06	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍
2023-02-17 16:46:06	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍
2023-02-17 16:45:50	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍
2023-02-17 16:45:50	IPC072LB-AX400PDC_192.168.1.13	セクション検知開始	レベル3	🔍

- **Alarm-triggered View** ボタン () をクリックして、アラームがトリガーされたライブビデオを表示します。



ヒント :

- ウィンドウツールバーが利用できます ([ライブビューウィンドウツールバー](#) を参照のこと)。
- 画面のロック : このオプションを選択した場合、現在のウィンドウレイアウト (4 分割ウィンドウのレイアウトなど) はロックされるため、アラーム起動型ライブビデオが新たに生成されても、レイアウトは変更されません。
- 現在のライブビューのロック : このオプションを選択した場合、現在のライブビデオは、新たなアラーム起動型ライブビデオと入れ替わりません。
- 設定した再生時間が終わると、ライブビデオは停止します ([アラーム起動型アクションの設定](#) を参照のこと)。アラーム録画の左上部分をダブルクリックすると、もう一度ビデオを再生できます。
- 左下のボタンをクリックすると、アラーム録画ページが開きます。

アラームレベルと、それに対応するアラームタイプ :

アラームレベル	アラームタイプ
レベル1	手動アラーム
レベル2	デバイスオフライン、動体検知起動、アラーム入力起動、クロスライン検知、侵入検知、顔検知、音声検知起動、デフォーカス検知起動、シーン変化検知、自動追跡起動、改ざん検知起動、ディスク異常、ディスクオフライン、アレイ損傷、アレイ劣化、顔認識一致アラーム、顔認識不一致アラーム、物体放置、物体除去、人体検知、ビデオロス発生、高温化、低温化、

アラームレベル	アラームタイプ
	ファン不具合、LEDディストリビューションボックスの高温化、LEDディストリビューションボックスの煙探知、入室エリア、退室エリア。
レベル3	デバイスオンライン、ディスクオンライン。
レベル4	保留。
レベル5	動体検知終了、アラーム入力終了、自動追跡終了、音声検知終了、改ざん検知終了、アレイ復旧、ビデオロス解消、高温化解消、低温化解消、ファン不具合解消、LEDディストリビューションボックス高温化解消、LEDディストリビューションボックス煙検知終了。

15.2.2 履歴アラーム

History タブで、直近のアラームや履歴アラームを含むすべてアラームが復帰できます。



以下の操作が可能です。

- 検索条件を設定します。**Reset** をクリックすると、検索条件がリセットされます。
- ヘッダー（アラーム時間など）をクリックすると、録画を昇順/降順で並べ替えることができます。
- 1 ページに表示される録画数を選択します。
- 録画をダブルクリックすると詳細が表示されます。**Alarm Time** は、アラームが発生したときのパソコンのシステム時間で、**Device Time** は、アラームが発生したときのデバイスのシステム時刻です。これらの時間は一致しないことがあります。パソコンとデバイスが異なる時間帯に属している場合にも、時間が一致しないことがあります。



- アラームを選択して、**Acknowledge** をクリックし、アラームを確認します。
- **Export** をクリックすると、パソコンに CSV ファイルとして検索結果がエクスポートされます。Microsoft Excel でファイルを開くことができます。

16 操作ログ

コントロールパネルで **Operation Log** をクリックすると、ログを検索して、パソコンに検索結果をエクスポートできます。ログ情報には、ユーザー名、操作の詳細、結果が含まれます。



以下の操作が可能です。

- 検索条件を設定します。**Reset** をクリックすると、検索条件がリセットされます。
- ヘッダー（ログ時間など）をクリックすると、録画を昇順/降順で並べ替えることができます。
- 1 ページに表示される録画数を選択します。

- 録画をダブルクリックすると詳細が表示されます。
- **Export** をクリックすると、パソコンに CSV ファイルとして検索結果がエクスポートされます。

17 システム設定

コントロールパネルで **System Configuration** をクリックすると、次のパラメータが設定できます。

パラメータ		説明
音声とビデオ	再生モード	<ul style="list-style-type: none"> • 最小遅延：ビデオの遅延がなくなる、もしくは最小限になりますが、ビデオの画質は劣化することがあります。 • バランス：ビデオの遅延とスムーズさのバランスです。 • スムーズ：ネットワーク状況が悪いとビデオの遅延が発生することがありますが、ビデオのスムーズさは向上します。
	ストリームのタイプ	<ul style="list-style-type: none"> • 画面レイアウトへの適合：このオプションを選択すると、クライアントはウィンドウ数に応じてストリームタイプを選択します。 ウィンドウ数が 16 個以上の場合：第 3 ストリーム ウィンドウ数が 4~16 個の場合：サブストリーム ウィンドウ数が 4 個以下の場合：メインストリーム • デフォルトのストリームタイプを使用の場合：メインストリーム、サブストリーム、またはサードストリームを選択します。
	再生モード	デフォルトの再生モードを選択します：HD、SD。 注意： この機能は、NVRに保存されているビデオにのみ利用できます。
	ストリーム送信プロトコル	カメラがディスプレイウィンドウにビデオデータを送信する送信プロトコル。設定を変更した場合、次回ソフトウェアを起動したときに新しい設定が有効になります。 注意： <ul style="list-style-type: none"> • TCP はネットワーク状態が不良な場合に推奨されます。

パラメータ		説明
		<ul style="list-style-type: none"> UDP の場合、ソフトウェアがファイアウォールでブロックされないことを確認してください。
	最大化されたライブビューウィンドウでメインストリームを再生	<ul style="list-style-type: none"> 選択した場合：ダブルクリックまたはショートカットメニューを使用してライブビューウィンドウを最大化する際、現在のストリームタイプはメインストリームに自動的に切り替わります（異なるストリームタイプの場合）。また、ウィンドウを元に戻す場合は、ストリームタイプも自動的に戻ります。 選択していない場合：ライブビューウィンドウを最大化しても、ストリームタイプは変更されません。
	ショートカットPTZコントロールの有効化	有効にするとショートカットPTZコントロールが利用できます。
	VCAルールの有効化	これを有効にすると、この機能をサポートするカメラのライブビデオにVCAルールが表示されます。 注意： この機能は、Mac OSでは使用できません。
	GPUモードの有効化	これを有効にすると、ソフトウェアは、さらに多くのカメラでストリーミングを起動できます。 このオプションを有効にすると、サポートされるエンコーディングフォーマット（H.264やH.265など）が表示されます。 注意： この機能は、Mac OSでは使用できません。
スナップショット	スナップショットモード	<ul style="list-style-type: none"> 自動：指定のパスを通じて、指定のフォーマットでスナップショットが保存されます。 マニュアル：このモードでは、保存したいスナップショットを選択し、パスとフォーマットを設定し、備考を記入する（JPEG の場合のみ）ことができます。
	連続スナップショットの間隔	2枚のスナップショットの撮影間隔です。
	連続スナップショット	1回に撮影されるスナップショットの枚数。
	スナップショットフォーマット	撮影されたスナップショットがクライアントコンピュータに保存される際のフォーマットを選択します。

パラメータ		説明	
		<ul style="list-style-type: none"> • BMP : スナップショットを圧縮せずに保存します。JPEG よりも多くのスペースを占有します。 • JPEG : スナップショットを圧縮して画質を落とし、スペースを節約します。 	
録画	録画のダウンロード	ダウンロードした録画のパスを初期化して保存します。	
	ローカル録画	ローカル録画のパスを初期化して保存します。	
		録画の空き容量がいっぱいになった場合の録画ポリシーを設定します :	
		<ul style="list-style-type: none"> • 上書き : 容量がいっぱいになった場合、古い録画から新しい録画に上書きされます。 • 停止 : 容量がいっぱいになった場合、録画は停止します。 	
		録音の空き容量: 録音の保存に使用されるディスク容量です。 注意 : 録画の空き容量は 2GB 以上確保しておくことをお勧めします。 録画ファイルのサイズ : 1個の録画のサイズです。	
POS OSDの設定	<p>ライブビューのPOS OSDの位置、サイズ、色、継続時間を設定します。</p> <p>期間 : POS OSDがライブビューに表示される時間です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • カスタム : POS OSDの継続時間をカスタマイズします。 • 自動 : POSに設定されたPOS OSDの期間を自動で解析します。 		
システム	スタートアップ	ガードステーション3.0への自動ログインを有効化	<p>有効の場合ソフトウェアを起動するとガードステーションに自動でログインします。</p> <p>これと同時に Enable Auto Login to Windows を有効にすると、コンピュータがWindowsオペレーティングシステムにアクセスした後に、ソフトウェアが自動的に起動します。</p>
		Windowsへの自動ログインの有効化	<p>これを有効にすると、起動時に、入力したユーザー名とパスワードを使用して、自動的にWindowsにログインされます。</p> <p>注意 : この機能は、Mac OSでは使用できません。</p>
	ログ	操作ログ保存期間	操作ログを保存する期間。

パラメータ		説明
操作		アラームログ保存期間 アラームログを保存する期間。
	メンテナンス	設定のインポート 設定ファイルから設定をインポートします。
		設定のエクスポート 設定をエクスポートしファイルとして保存します。
	アラーム	アラーム音の有効化 これを有効にすると、アラームの鳴動時間をカスタマイズしたり、アラームタイプに応じて異なる音を設定できます。
		アラーム前後の再生時間 アラーム発生時の前と後におけるビデオの再生時間。この設定を使用して、 Alarm Records ページで再生されるアラームビデオの長さをカスタマイズできます。
サービス	自動時間同期の有効化 これを有効にすると、ソフトウェアによって、同期間隔ごとに、パソコンのシステム時間とカメラの時間が同期されます。	
Eメール	アラーム起動型メール (アラーム起動型アクションの設定 を参照のこと) で必要となります。アラームが発生すると、指定のメールアドレスにメールが送信されます。 <ul style="list-style-type: none"> 暗号化タイプ：Eメール送信の暗号化タイプを選択します。 送信者：メールの送信に使用されるメールアドレス。 受信者：メールの受信に使用されるメールアドレス。 ヒント ：受信者としてメール送信者のメールアドレスを使用し、 Send Test Email をクリックしてテストを行ないます。	
伝染病の制御	温度単位 Celsius または Fahrenheit で温度単位を選択します。	
	マスク検知 マスク検知を有効化/無効化します。有効にすると、マスクを着用していない人の数が Face Recognition > Realtime Monitoring に表示されます。	
	異常体温の検知 異常体温を有効化/無効化します。有効にすると、体温が異常な人の数が、 Face Recognition > Realtime Monitoring に表示されます。	
	異常体温しきい値 測定した体温がしきい値より高い場合、システムによりアラームが通知されます。	
	アラーム音 有効の場合、体温が異常な人やマスクを着用していない人が検知されたときに、アラーム音が鳴ります。尚、 Abnormal Temperature Detection または	

パラメータ		説明
		Mask Detectionを予め有効にしておく必要があります。
	ポップアップアラームウィンドウ	有効の場合、異常体温やマスクを着用しない人が検知されたときに、アラームウィンドウがポップアップ表示されます。尚、Abnormal Temperature DetectionまたはMask Detectionを予め有効にしておく必要があります。
	電子メールを送信	有効の場合、体温が異常な人やマスクを着用していない人が検知されたときに、アラームがEメールで通知されます。尚、Abnormal Temperature DetectionまたはMask Detectionを予め有効にしておく必要があります。
属性表示		Face RecognitionモジュールのRealtime Monitoring、Alarm Records、Pass-Thru Recordsタブに表示されるパラメータを設定します。デフォルトでは、すべてのパラメータが表示されます。これらのタブで特定のパラメータを非表示にすることができますが、Detailsウィンドウにはすべてのパラメータが表示されます。

18 ユーザ管理

コントロールパネルで **User Management** をクリックすると、ユーザーを追加、編集または削除し、権限を割り当てることができます。「admin」はスーパー管理者であり、削除できません。

1. ユーザー追加するには **Add** をクリックします。
 - 管理者：Admin のみが管理者を追加できます。デフォルトでは、管理者は全権限を有しています。
 - 操作者：Admin またはユーザ管理権限を有する管理者は、操作者を追加できます。デフォルトでは、操作者には何の権限もありません。
2. 権限を割り当てるには、左で権限を指定してください。一部の権限（ライブビューなど）では、右でデバイスを選択する必要があります。
3. ユーザー名（ユーザー名、パスワード、権限）を編集するには、リストでユーザーをダブルクリックします。ユーザーを削除するには、ユーザーを選択して **Delete** をクリックします。



注意！

権限のないメニューは薄いグレーで表示されるか、非表示になります。必要に応じて Admin にご連絡ください。

19 付録

19.1 MyDDNSでエンコーディングデバイスの追加

1. お使いのルーターで UPnP を有効にします。ルーターのユーザーガイドを参照してください。
2. デバイスの Web インターフェイスにログインし、ポートマッピングを有効にします (**Network > Port Mapping**) 。
 - マッピングモード：UPnP が推奨されます
 - マッピングタイプ：Auto が推奨されます。デバイスとルーターが外部ポートを決定します。
 - **Manual** を選択した場合、設定したポートが有効であることを確認してください。さもないと、ポートマッピングが有効になりません。
 - 外部 IP アドレスが表示されない場合：a. ルーターで UPnP が有効であることを確認してください。b. 一部のルーターでは、ポートマッピング用のデバイス数が制限されています。最大数に達すると、不要なポートマッピングが取り消されます。
3. 次のように、デバイスの Web インターフェイスで、DDNS を設定します (**Network > DDNS**) :
 - DDNS のタイプ：MyDDNS
 - サーバー・アドレス：www.star4live.com
 - ポート：80
 - ドメイン名：覚えやすい名前を選択し（例：myNVR123）、使用可能かどうかテストしてください。
 - 設定が成功すると、デバイスがオンラインになり、サーバーアドレスが表示されます（例：www.star4live.com/myNVR123）。
4. ソフトウェアにエンコーディングデバイスを追加します。
 - 追加モード：MyDDNS
 - デバイス名：必要に応じて設定
 - ドメイン：ステップ 3 で取得したドメイン名（この場合、myNVR123）
 - デバイスのユーザー名とパスワードを入力します
5. **Add** をクリックします。

19.2 予備モニターの回復

お使いのパソコンが予備モニターに接続されている場合、予備モニターにタブをドラッグすると、それにタブ（Live View など）を表示できます。ソフトウェアが再起動しても、予備モニターにタブが表示されたままになります。

マルチウィンドウディスプレイ

タブをドラッグして新しいウィンドウを開きます。

例：

